

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
1	2006/09/01	60383	川崎三鷹製薬	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			
2	2006/09/01	60384	化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン	初代腎臓培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
3	2006/09/01	60385	化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	ラクトアルブミン	ウシ乳	米国、ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
4	2006/09/01	60386	化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
5	2006/09/01	60387	化学及血清療法研究所	①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン ④組織培養不活化狂犬病ワクチン	筋アデニル酸	ウマ肉	米国	①~③製造工程・添加物 ④製造工程	無	無	無			
6	2006/09/01	60388	化学及血清療法研究所	①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ③沈降破傷風トキソイド ④ジフテリア破傷風混合トキソイド ⑤ジフテリアトキソイド ⑥コレラワクチン ⑦乾燥ジフテリアウマ抗毒素 ⑧乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 ⑨沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ⑩破傷風トキソイド	ペプトン	ブタ胃	米国、日本	①添加物 ②~⑩製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
7	2006/09/01	60389	化学及血清療法研究所	①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン ④組織培養不活化狂犬病ワクチン	コレステロール	ヒツジ毛	ニュージーランド、オーストラリア	①～③製造工程・添加物 ④製造工程	無	無	無			
8	2006/09/01	60391	化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	ラクチオン酸エリスロマイシン	ウシ乳	米国、カナダ、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
9	2006/09/04	60392	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシ肉エキス	ウシ肉、骨、脂肪	日本、ブラジル、インド、米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
10	2006/09/04	60393	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降破傷風トキソイド	スキムミルク	ウシ乳	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
11	2006/09/04	60394	阪大微生物病研究会	百日せきワクチン 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ポリペプトン	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
12	2006/09/04	60395	阪大微生物病研究会	インフルエンザワクチン インフルエンザHAワクチン	尿膜腔液	発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	J Gen Virol 2006; 87: 1823-1833	中国 Qinghai湖で2005年5月から7月に高病原性H5N1トリインフルエンザウイルスのアウトブレイクにより、何千もの野生の渡り水鳥が死亡した。この時に収集されたガチョウから単離したH5N1インフルエンザウイルス(Bh H5N1ウイルス)を分析した。遺伝子分析の結果、Bh H5N1ウイルスは再配列ウイルスで、PB2遺伝子の627位のアミノ酸残基(リジン)は、ヒトH5N1ウイルス(A/HK/483/97)と同じであり、GenBankにあるH5N1トリインフルエンザウイルスとは異なっていた。
13	2006/09/04	60396	阪大微生物病研究会	発疹チフスワクチン	卵黄囊	発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	J Gen Virol 2006; 87: 1823-1833	60395に同じ
14	2006/09/04	60398	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肉水	ウシ肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
15	2006/09/04	60399	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	カザミノアシド	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
16	2006/09/04	60400	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥痘そうワクチン 沈降精製百日せきワクチン コレラワクチン ジフテリアトキソイド ワイル病秋やみ混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ポリペプトン	ウシの乳	ニュージーランド、中国	製造工程	無	無	無			
17	2006/09/04	60401	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシの乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
18	2006/09/04	60402	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ心臓透析外液	ウシ心臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
19	2006/09/04	60403	武田薬品工業	インフルエンザHAワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
20	2006/09/04	60404	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ニワトリ胚細胞	ニワトリ胚	日本	製造工程	無	無	無			
21	2006/09/04	60405	武田薬品工業	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ペプシン	ブタ胃	アメリカ合衆国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
22	2006/09/04	60406	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	トリプシン	ブタ脾臓	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	無	無	無			
23	2006/09/04	60407	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	バクトカジン	ウシの乳	ニュージーランド、アメリカ合衆国、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
24	2006/09/04	60408	武田薬品工業	①乾燥弱毒生麻しんワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン ④日本脳炎ワクチン ⑤乾燥日本脳炎ワクチン ⑥乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウシ血清	ウシ血液	①～③アメリカ合衆国、ニュージーランド、オーストラリア ④、⑤ニュージーランド ⑥ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
25	2006/09/04	60409	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	スキムミルク	ウシの乳	アメリカ合衆国、日本	製造工程	無	無	無			
26	2006/09/04	60410	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肝臓	ウシ肝臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
27	2006/09/04	60411	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ウマ血清	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
28	2006/09/04	60412	武田薬品工業	痘そうワクチン 乾燥痘そうワクチン	ウシ皮膚	ウシ皮膚	日本	製造工程	無	無	無			
29	2006/09/04	60413	武田薬品工業	乾燥弱毒生風しんワクチン	筋アデニール酸	ウマ筋肉	アメリカ合衆国	製造工程	無	無	無			
30	2006/09/04	60414	武田薬品工業	ウイルス病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギ血液	日本	製造工程	無	無	無			
31	2006/09/04	60415	武田薬品工業	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血清	日本	有効成分	無	無	無			
32	2006/09/04	60416	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシの肝臓	ウシの肝臓	日本、米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
33	2006/09/04	60417	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ビーフハートインフュージョン	ウシの心臓	インド、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
34	2006/09/07	60419	あすか製薬	日局カリジノゲナーゼ	カリジノゲナーゼ	ブタ臓臓	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 914-920	2005年7月中旬から8月末の間に中国四川省で215例のヒト連鎖球菌感染が報告され、うち66例は確定例であった。全ての感染例は、原因不明で死んだブタや病気ののために食用になったブタを屠殺する過程で暴露した農業従事者で発生した。61例(28%)が連鎖球菌毒素ショック症候群を呈し、うち38例(62%)が死亡した。その他、敗血症(24%)と髄膜炎(48%)または両者であった。単離された全ての菌は tuf、種特異的16S rRNA、cps2J、mrp、ef、およびslyIに対する遺伝子に陽性で、単一の株であった。
35	2006/09/07	60420	伊藤ライブサイエンス	ダルテバリンナトリウム	ダルテバリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	ProMED20060412-0060 Boston.com 2006年4月11日 PLoS Med 3(5): e218 2006年4月11日	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。ブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシックショック症候群により死亡した。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。トキシックショック症候群と診断され、ブタとの接触があった患者は全てブタ連鎖球菌感染を調べた方がよい。
												炭疽	OIE Disease Information 19(19) 2006年5月11日、19(20) 2006年5月18日、19(28) 2006年7月13日	2006年4月10日、レットで炭疽が発生した。5月17日までにウシ51頭、ヒツジ70頭、ウマ39頭が死亡した。死んだ動物の肉を食べた30人が感染し、うち5人が死亡した。
												炭疽	ProMED-mail20060730.2107 ProMED-mail20060802.2141 ProMED-mail20060806.2195 ProMED-mail20060808.2228 ProMED-mail20060811.2257	カナダ Saskatchewanで2006年7月初めに始まった炭疽のアウトブレイクで、隣のManitobaを含め、少なくとも746頭の家畜が死亡し、146農場が隔離されている。1950年代以降最大のアウトブレイクである。カナダの公衆衛生局は炭疽がヒトに感染する危険性は極めて低いと強調している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
36	2006/09/07	60421	日本ビーシージー製造	精製ツベルクリン	乳糖	ウシの乳	オランダ、ベルギー、ドイツ、ルクセンブルグ	添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2006; 87: 251-254	脳内接種により、げっ歯類に適合したBSEまたはvCJDに感染させたハムスターとマウスの骨格筋から、病原体プリオンが検出された。陽性の筋肉検体中のPrPTSE濃度は、脳検体中濃度の500から1000倍低かった。骨格筋のTSE関与のリスクをさらに評価する必要がある。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	New Zealand J Agricult Res 2005; 48: 499-515	BSE、スクレイビーおよび慢性消耗病はニュージーランドには存在しないが、サーベイランスは、死後検体をイムノブロット法で検査することにより行われている。最近開発されたイムノブロット法(GDI)はTSEの株や亜型を区別でき、血液検体中での検出も可能かもしれない。増幅法(PCMA)は最小量を検出できる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Dev Biol (Basel) 2006; 123: 335-345	大部分のワクチンまたはワクチン製造工程でウシ組織由来物質が使われている。ワクチン製造に使われる最初の組織を、固有のTSEリスクに基づいて選択することがまず重要であり、安全な起源の第一評価として地理的因子を用いるより安全性が高い。組織が適切に集められ、加工され、詳細な記録が保管されることは必須である。
												人畜共通感染症	Dev Biol (Basel) 2006; 123: 273-280	ワクチン製造、ウイルス診断試験または原料試験に使われる細胞培養に添加する動物起源物質の使用は、ワクチンを汚染し、接種した動物で血清転換や疾患を引き起こし、検体の誤診断や間違った試験結果の原因となるおそれがある。血清や細胞培養をモニターするために獣医学生物学センターで用いられている方法を紹介した。培地や添加物としてウシやブタなどの動物起源原料を使用する際には、ヒトへの交差の可能性も考慮し、検査、血清フリー培地、起源の確認、ウイルス不活性化、検査方法の改良が必要である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2006; 87: 1043-1046	BSEに感受性のあるPRNP遺伝子型ヒツジにBSE物質を経口摂取させると、宿主の体内にプリオンが広く分布した。ARRホモ接合体ヒツジはTSEに耐性があると考えられているため、ヒツジの群れからスクレイビーを根絶し、小反芻動物BSEリスクからヒト食物連鎖を守るために選択されてきた。しかし、ARR/ARRヒツジで同様の実験を行ったところ、経口摂取の数カ月後には健康なARR/ARRヒツジの脾臓に有意な量のPrPScが蓄積されることが明らかとなった。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biochem Biophys Res Commun 2006; 342: 293-299	PrP遺伝子のコドン129での多型とBSEまたはvCJDプリオンに対する感受性との関係を調べるため、ヒト化ノックインマウスにプリオン蛋白を腹腔内接種し、脾臓濾胞樹状細胞への蓄積を調べた。ヒト化ノックインマウスはBSEプリオンにはほとんど又は全く感受性を示さなかった。驚いたことに、コドン129Met/Metを持つヒト化ノックインマウスだけでなく、コドン129Met/Valを持つものもvCJDプリオンに感染した。コドン129Val/Valを持つヒト化ノックインマウスは感受性がなかった。
37	2006/09/07	60422	日本ビーシージー製造	精製ツベルクリン	全卵	ニワトリの卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1515-1521	高病原性A型トリインフルエンザ(H5N1)のアウトブレイクはアジア9カ国の家禽に広がり、2004年1月から2005年4月までにベトナム等で52名以上が死亡した。トリとヒトから分離したH5N1の遺伝子解析を行ったところ、地理的分布が重ならない2つの異なったクレードを示した。全てのウイルス遺伝子はトリインフルエンザ起源であり、ヒトインフルエンザウイルスとの再配列はなかった。調べられたヒトH5N1単離体は全て単一のクレードに属し、アダマンチン薬には抵抗性があるが、ノイラミニダーゼ阻害薬には感受性があった。
												鳥インフルエンザ	Avian Diseases 2005; 49: 436-441	2004年12月に発生した山口県の養鶏場のニワトリの高病原性トリインフルエンザ感染について、疫学的、病理学的、免疫組織化学的研究を行った。処分前の致死率は34640羽のうち43.3%であった。死んだトリは臨床症状は示さなかった。組織学的には肝細胞、脾臓の夾組織および濾胞、ならびに脳幹、大脳、小脳のグリア小結節などで壊死が見られた。免疫組織化学的にはインフルエンザウイルス抗原は肝臓、脾臓、心臓などで見られたが、肺や気管では稀であった。ウイルスの呼吸器からの排泄は消化管からの排泄ほど優位ではないことが示された。
												鳥インフルエンザ	Nature 2006; 440: 741-742	トリインフルエンザH5N1ウイルス感染による飼いネコの死亡報告がアジアとヨーロッパで増加している。ネコはウイルスの疫学に考えられていた以上に大きな役割を果たしているかもしれない。ネコが感染し、高病原性ウイルスを家禽やヒトや他の種に拡げる危険性を最小限にするために、国や関係機関は新たな注意を払う必要がある。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
38	2006/09/07	60423	ファイザー	ダルテバリンナトリウム	ダルテバリンナトリウム	ブタの腸	米国	有効成分	無	無	無			
39	2006/09/07	60424	あすか製薬	日局胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国、ブラジル	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	N Eng J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
40	2006/09/08	60425	味の素	バルナバリンナトリウム注射液	バルナバリンナトリウム	健康なブタの腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
41	2006/09/08	60426	日本シェーリング	インターフェロンベータ-1b(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	アメリカ	添加物	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
42	2006/09/12	60427	日本シェーリング	レビバリンナトリウム	レビバリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
43	2006/09/13	60428	東和薬品	塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤	コンドロイチン硫酸ナトリウム	魚類の軟骨抽出物	アメリカ	添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。
44	2006/9/15	60397	日本メジフィジックス	テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)	テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)	人血清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			
45	2006/09/19	60418	化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第IX因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第IX因子 乾燥濃縮人アンチトロンビンIII	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国、フランス、アメリカ、カナダ	製造工程	無	無	無			
46	2006/09/19	60429	化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第IX因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第IX因子	血液凝固第IX因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクンゲンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクンゲンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクンゲンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。
47	2006/09/19	60437	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ハートエキス	クジラ心臓	捕鯨国:日本	製造工程	無	無	無			
48	2006/09/19	60438	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶ毒	ハブ毒素	日本	原材料	無	無	無			
49	2006/09/19	60439	化学及血清療法研究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむし毒	マムシ毒素	日本	原材料	無	無	無			
50	2006/09/19	60440	化学及血清療法研究所	①乾燥日本脳炎ワクチン ②乾燥弱毒生麻しんワクチン ③乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン ④乾燥弱毒生風しんワクチン ⑤乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	乳糖	ウシ乳	ニュージーランド	①、③～⑤添加物、②製造工程	無	無	無			
51	2006/09/19	60441	化学及血清療法研究所	乾燥日本脳炎ワクチン 日本脳炎ワクチン	脳	マウス脳	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Arch Virol 2006 Published online Feb 26, 2006	2004年初頭、日本で発生した高病原性トリインフルエンザで死亡したニワトリから単離されたA/chicken/Yamaguchi/7/04(H5N1)ウイルスを、ニワトリ、ウズラ、セキセイインコ、コガモ、マウス、ミニブタに経鼻で接種し、実験的に感染させることにより病原性を評価した。このウイルスは調べられた全てのトリで高病原性を示し、ニワトリは接種後4日以内に6例全てで死亡し、ウイルスは呼吸器、肝臓、腎臓、大腸、脳から検出されたが、血液からは検出されなかった。マウスは感染に感受性はあるが、致死率は低かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
52	2006/09/19	60442	化学及血清療法研究所	ウイルス病治療血清	血清	ウサギ血液		製造工程	無	無	無			
53	2006/09/19	60443	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ウイルス病治療血清 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	血清	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
54	2006/09/19	60444	化学及血清療法研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	発育鶏卵	ニワトリ発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
55	2006/09/19	60445	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ガスエソ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ペプシン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
56	2006/09/19	60446	化学及血清療法研究所	ウイルス病治療血清	肝臓	モルモット肝臓		製造工程	無	無	無			
57	2006/09/19	60447	化学及血清療法研究所	ウイルス病治療血清	血液	モルモット血液		製造工程	無	無	無			
58	2006/09/19	60448	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
59	2006/09/19	60449	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 破傷風トキソイド	スキムミルク	ウシ乳	アメリカ	製造工程	無	無	無			
60	2006/09/19	60450	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ワイル病治療血清 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ポリペプトン	ウシ乳	中国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
61	2006/09/19	60451	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肝臓	ウシ肝臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
62	2006/09/19	60452	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肉	ウシ肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
63	2006/09/19	60453	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートインフュージョンアガー	ウシ乳・心臓		製造工程	無	無	無			
64	2006/09/19	60454	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートインフュージョンブイオン	ウシ乳・心臓		製造工程	無	無	無			
65	2006/09/19	60455	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶウマ抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
66	2006/09/19	60456	化学及血清療法研究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむしウマ抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
67	2006/09/20	60459	フジモト・ダイアグノスティックス	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	日本白色種家兎皮膚抽出液	中国	有効成分	無	無	無			
68	2006/09/21	60460	持田製薬	インターフェロン ベータ	インターフェロン ベータ	ヒト線維芽細胞	日本	有効成分	無	無	無			
69	2006/09/21	60461	持田製薬	インターフェロン ベータ	カルボキシペプチダーゼ	ブタ膵臓	米国	製造工程	無	無	無			
70	2006/09/21	60462	持田製薬	インターフェロン ベータ	トリプシン	ブタ膵臓		製造工程	無	無	無			
71	2006/09/21	60463	持田製薬	インターフェロン ベータ	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
72	2006/09/21	60464	持田製薬	インターフェロン ベータ	インスリン	ウシ膵臓		製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
73	2006/09/21	60465	持田製薬	①日局硫酸フラジオマイシン、結晶トリプシン ②インターフェロン ベータ	トリプシン	ウシ睪臓	ニュージーランド	①有効成分 ②製造工程	有	無	無	BSE	OIE <a href="http://www.oie.int/Messages/060309SUE.htm">http://www.oie.int/Messages/060309SUE.htm</a>	スウェーデンでBSEが初めて報告された。Vastmanland郡の1994年3月生まれの内食用交雑種雌牛で、乳熱後に後足の問題で処分された。迅速検査で陽性後すぐに、同じ群れのウシは制限下に置かれた。診断は国立獣医学研究所と英国のOIE Reference研究所で行われた。危険動物の同定と餌に関する調査はEU法に準じて行われる。
												BSE	ProMED20060429-0030	2006年2月にクロアチアから、4月にエストニアから、各々、国内初となるBSE疑い例を発表したが、OIEは組織病理学的診断の結果、BSEは確認されなかったことを報告した。
74	2006/09/21	60466	持田製薬	インターフェロン ベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物・製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	CDC 2006年6月30日	種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒト-ヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に拡がるように変化しうることを科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。
75	2006/09/21	60476	持田製薬	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会(2006年4月20-21日)	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	CDC 2006年6月30日	種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒト-ヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に拡がるように変化しうることを科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。
76	2006/09/22	60467	ジェンザイム・ジャパン	アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞		有効成分	無	無	無			
77	2006/09/22	60468	ジェンザイム・ジャパン	アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	ドナー子ウシ血清	ドナー子ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
78	2006/09/22	60469	日本製薬	乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリンG	人血液	日本	有効成分	有	無	無	伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、パルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	GDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
												E型肝炎	日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf	北海道赤十字血液センターで献血者のHEV保有状況を調べた。平成16年11月1日から平成17年10月31日にブタ、シカ等の生肉、生レバーの喫食歴のある献血者は298,790人中802人(0.28%)で、その血液検体からHEV-RNAが1例検出された。平成17年11月1日から12月31日に生肉、レバー等の喫食歴のある献血者は49,361人中13,835人(28.0%)で、HEV-RNAが5例検出された。平成17年1月1日から12月31日の試行的HEV20プールの検査での陽性率は約1万分の1であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 <a href="http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html">http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html</a>	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
79	2006/09/22	60470	日本製薬	トロンピン	トロンピン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	60469に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	60469に同じ
												E型肝炎	日本赤十字社 <a href="http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf">http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf</a>	60469に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 <a href="http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html">http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html</a>	60469に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60469に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
80	2006/09/22	60471	日本製薬	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	人アンチトロンビンⅢ	人血液	日本	有効成分	有	無	無	伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	60469に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	60469に同じ
												E型肝炎	日本赤十字社 <a href="http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf">http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf</a>	60469に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 <a href="http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html">http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html</a>	60469に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60469に同じ
81	2006/09/22	60472	日本製薬	人血清アルブミン加熱人血漿たん白	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	60469に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	60469に同じ
												E型肝炎	日本赤十字社 <a href="http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf">http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf</a>	60469に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html	60469に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60469に同じ
82	2006/09/22	60473	わかもと製薬	ウロキナーゼ	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	有	無	デング熱	ProMED20060422-0090	ベネズエラで疫学週1週間のデング熱患者は722人で、うち42人(5.8%)がDHFであった。累計デング熱患者は11099人で、2005年同時期の患者数(8024人)と比較して28.9%上昇している。また、香港で、健康予防センター(Centre for Health Protection)は25才の女性のデング患者を確認した。これにより年間累計患者数は9人になった。全例とも輸入例である。
												ウイルス感染	CDR Weekly 2006; 16(21)	2006年5月15日現在、HPA Special Pathogens Reference Unitにより確定された2006年の英国におけるチクングンヤ症例は48例である。血清学的にチクングンヤと診断された症例数は、1999年から2004年は年に平均6例、2005年は19例であった。患者の大多数はアジアかアフリカへの旅行歴があったが、2006年の患者のうち5例は旅行歴がなかった。インド洋諸島でのアウトブレイクは減少傾向であるが、非免疫旅行者にとって感染の危険はしばらく続くであろう。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ペスト	Weekly epidemiological record 2006; 81: 241-242	WHOは2006年6月13日までに100名の肺ペスト疑い患者がコンゴ共和国Oriental州Ituri地区で発生し、うち19名が死亡したという報告を受けた。現在のところ患者数は不明であるが腺ペスト患者の発生も報告されている。Ituri地区は世界中で最もペストが発生することで知られており、年間約1000例報告されている。
												HTLV	CDR Weekly 2006; 16(30) HIV/STIs	2005年に英EnglandおよびWalesにおける新規HTLV診断は73例で、男性22例、女性51例であった。うち、63例がHTLV-1型、4例がHTLV-2型、1例が両方に感染していた。46例について詳細情報を収集した医師報告を受け取り、予想される感染経路として、3例(9%)が輸血であった。
												HIV	CDR Weekly 2006; 16(30) HIV/STIs	英国におけるHIVの四半期最新情報(2006年6月末までのデータ)。1982年にサーベイランスが始まって以来2006年6月末までにHIV診断数は80556例報告された。感染経路別、性別、診断年別のデータを示している。輸血または血液因子製剤による感染は2005年度は男性7例、女性9例、2006年度は6月末までに男性3例、女性2例である。
												ウイルス感染	ProMED-mail20060801.2120	インドstate for health and family welfareの長官は、5つの州においてチクングンヤの高発生が報告されていると、発表した。Andhra Pradeshで66109例、Karnatakaで543286例、Maharashtraで202114例、Tamil Naduで41211例、Madhya Pradeshで43784例である。
												ウイルス感染	WHO EPR 2006年8月8日	トルコ保健省は、2006年1月1日～8月4日のクリミア-コンゴ出血熱確定症例は242例(致死率8.3%)であったことを報告した。2006年6月30日以降症例92例および死亡9例が新たに報告された。死亡例のうち1例は治療に当たっていた医療従事者であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
83	2006/09/22	60474	わかもと製薬	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	人尿	中国	有効成分	有	無	無	灰白髄炎	MMWR Weekly 2006; 55: 458-462	2005年1月から2006年3月までの世界的な野生型ポリオウイルス伝播撲滅の進行状況について述べた。World Health Assemblyによりポリオ撲滅運動が開始された1988年にはポリオ土着国は125ヶ国であったが、2005年には4ヶ国(アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタン)に減少した。以前ポリオが根絶していたアジア、アフリカの22ヶ国で2003年以降に再感染したが、2005年7月以降は8ヶ国のみとなった。インド、パキスタンでも2004年に比べほぼ半減し、根絶に近づいている。
												コレラ	Weekly epidemiological record 2006; 81: 118-119	2006年1月28日から3月20日にスーダン南部全域で死亡例238例を含む急性水様性下痢患者8923例が報告された。最も患者数が多いJubaとYeiでは改善がみられているが、他の地域で稲葉型コレラと確定診断された症例もあり、アウトブレイクの監視が重要である。
												灰白髄炎	ProMED-mail20060621.1714	ナミビアでここ10年以上で初めてのポリオのアウトブレイクが発生した。1例目は2006年5月6日に発見され、確定された。2006年6月21日までに15例が死亡し、症例数は96例に急速に増加した。コンゴで2例、ニジェールで3例、野生型ポリオウイルスによるポリオの報告があり、輸入例であった。
												コレラ	ProMED-mail20060728.2086	アンゴラでコレラが15番目の州に拡大し、死亡者は2089例となり、症例数は5万例を超えたとWHOが2006年7月24日に発表した。2006年2月13日からの症例数である。
84	2006/09/22	60477	北里研究所	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎初代培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
85	2006/09/22	60478	北里研究所	コレラワクチン	ウシ心臓抽出物	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無			
86	2006/09/22	60479	北里研究所	コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	カザミン酸	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
87	2006/09/22	60480	北里研究所	コレラワクチン	ビーフエキストラクト	ウシ筋肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
88	2006/09/22	60481	北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
89	2006/09/22	60482	北里研究所	①コレラワクチン ②沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ③～⑤沈降破傷風トキソイド ⑥、⑦沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ペプトン	ウシ乳	①②③⑦中国、ポーランド ④⑤⑥中国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
90	2006/09/22	60483	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
91	2006/09/22	60484	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	エリスロマイシンラクトビオン酸塩	ウシ乳	ニュージーランド、カナダ、米国	製造工程	無	無	無			
92	2006/09/22	60485	北里研究所	①乾燥弱毒生麻しんワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ウシ胎児血清、新生仔牛血清	ウシ血液	①③ニュージーランド ②オーストラリア	製造工程	無	無	無			
93	2006/09/22	60486	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	乳糖水和物	ウシ乳	ニュージーランド	添加物	無	無	無			
94	2006/09/22	60487	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	コレステロール	ヒツジ毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
95	2006/09/22	60488	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ヒツジ血清	ヒツジ血液	米国	製造工程	無	無	無			
96	2006/09/22	60489	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	トリブシン	ブタ隣臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
97	2006/09/22	60490	北里研究所	①②インフルエンザHAワクチン ③インフルエンザワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	①②日本③不明	製造工程	無	無	無			
98	2006/09/22	60491	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ニワトリ胚初代培養細胞	孵化鶏卵	日本、米国	製造工程	無	無	無			
99	2006/09/22	60492	北里研究所	日本脳炎ワクチン	マウス脳乳液	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
100	2006/09/22	60493	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ血清	ウマ血液	米国	製造工程	無	無	無			
101	2006/09/22	60494	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降破傷風トキソイド	ウマ脱繊維素血液	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
102	2006/09/22	60495	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシリポプロテイン	ウシ血液	米国	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコードン129遺伝子型(MM、MV、VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	米国で見つかったBSE陽性ウシ2例は、ヨーロッパで見られる稀なBSE株由来のものであった。ロンドンの国際学会でフランスとイタリアの研究者は、検出されにくく、主に高齢の家畜に影響を与える2種類の稀なBSE株を報告した。フランスの研究者は、2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランス、スウェーデン、ポーランドで見られる少数のBSE異型株と同一であることを明らかにした。
103	2006/09/22	60496	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
104	2006/09/22	60497	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
105	2006/09/22	60498	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ脾臓、ヒトインスリン	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
106	2006/09/22	60499	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ蛋白加水分解物	ウシ脾臓、ウシ血液	米国	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
107	2006/09/22	60500	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	マウス脾臓細胞と骨髄腫細胞を融合した細胞にヒト遺伝子を導入した細胞株	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
108	2006/09/22	60501	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	マウス骨髄腫由来細胞	マウス骨髄腫		製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
109	2006/09/22	60502	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	凍結乾燥注射剤	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
110	2006/09/22	60525	武田薬品工業	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
111	2006/09/25	60436	メルク製薬	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸	中国	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
112	2006/09/26	60457	光製薬	ダルテバリンナトリウム注射液	ダルテバリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	ProMED-mail20060312.0783	中国農業局は、青海省でアジア1型口蹄疫が発生したと発表した。発生した農場のウシ19頭とブタ2頭が省獣医局により処分された。病気は2006年3月4日に報告され、口蹄疫と確定されたが、すぐに発生地域の消毒と隔離、ならびに感染するおそれのある全ての動物への接種が命令された。
												レンサ球菌感染	ProMED-mail20060411.1082	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。ブタ連鎖球菌( <i>Streptococcus suis</i> )で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシンショック症候群により死亡した。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。トキシンショック症候群と診断され、ブタとの接触があった患者は全てブタ連鎖球菌感染を調べた方が良い。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(18) 2006年5月4日	中国における口蹄疫のFollow-up report No. 4(2006年3月29日から4月30日まで)。病因の同定-口蹄疫ウイルスセロタイプアジア1。新規アウトブレイクの詳細-青海省 Haiyan郡。疑い例34例、症例4例。
												口蹄疫	ProMED-mail20060501.1266	中国青海省でこの2ヶ月で2回目の口蹄疫のアウトブレイクが起こった。2006年4月26日、4頭の牝牛がアジア1型口蹄疫を発症し、確定された。アウトブレイクを封じ込めるための緊急手段がとられている。
												レンサ球菌感染	PLoS Med 2006; 3:e151	2005年7-8月に中国四川省で発生した <i>Streptococcus suis</i> serotype 2(SS2)感染のアウトブレイクについて調べた。ヒト感染患者の臨床的、病理学的特徴は典型的な連鎖球菌中毒ショック症候群であった。2005年の流行ならびに1998年に江蘇省で流行した時のヒトおよびブタの検体から単離した菌の遺伝子型を調べたところ、両者は共通した遺伝子型を有していた。またミニブタでの感染実験で強い毒性を示した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1643-1649	IV型HEVについてヒトとブタ宿主との関係を調べるため、各々のウイルス保有率およびウイルスの遺伝的性質を調べ、また養豚場と感染のリスクとの関係を評価した。中国東部の2つの養豚地区では、ブタ9.6%、健康人0.3%で大便中からHEVが検出され、IV型サブタイプ2つが両者に共通していた。養豚に従事するヒトは他の職業のヒトより感染リスクが74%高く、養豚場の下流の住民は上流の住民より感染リスクが29%高かった。IV型HEVはブタからヒトへ自由に感染すると考えられる。
												レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 914-920	2005年7月中旬から8月末の間に中国四川省で215例のヒト連鎖球菌感染が報告され、うち66例は確定例であった。全ての感染例は、原因不明で死んだブタや病気のために食用になったブタを屠殺する過程で暴露した農業従事者で発生した。61例(28%)が連鎖球菌毒素ショック症候群を呈し、うち38例(62%)が死亡した。その他、敗血症(24%)と髄膜炎(48%)または両者であった。単離された全ての菌はtuf、種特異的16S rRNA、cps2J、mrp、ef、およびslyIに対する遺伝子に陽性で、単一の株であった。
113	2006/09/26	60458	ZLBベアリング	①人血清アルブミン ②人血液凝固第XIII因子 ③フィブリノゲン加第XIII因子	人血清アルブミン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	①有効成分 ②、③添加物	有	有	無	パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	海洋起源のVesivirus感染がヒトでどの程度広がっているかを調べた。供血基準をクリアした供血者群、ALT値が高いため供血不可であった供血者群、非A-G肝炎患者群、および輸血または透析に関連した肝炎患者群由来の血清をVesivirusに対する抗体ならびにゲノムについて検査した。Vesivirusビリオンに対する血清陽性は、各々、12%、21%、29%、47%であった。RT-PCRの結果、SMSV Vesivirusなどとの関連性が示された。感染がヒトに広くみられることが明らかになった。
114	2006/09/26	60506	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌荚膜ポリサッカライド	肺炎球菌荚膜	米国	有効成分	無	無	有			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
115	2006/09/26	60507	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	リボヌクレアーゼ	ウシ臍臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	有			
116	2006/09/26	60508	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	デオキシリボヌクレアーゼ	ウシ臍臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	有			
117	2006/09/26	60509	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	トリブシン	ウシ臍臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	有			
118	2006/09/26	60510	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	ハートインフュージョン培地	ウシ心臓、ウシ骨格筋、ウシ脂肪細胞、ウシ骨髄、ウシ結合組織	米国、カナダ、オーストラリア	製造工程	無	無	有			
119	2006/09/26	60511	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	ウサギ脱繊維血液	ウサギ血液	米国、カナダ	製造工程	無	無	有			
120	2006/09/26	60512	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	有			
121	2006/09/27	60475	扶桑薬品工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2006; 80(S): 297	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。串焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。
												巨型肝炎	日本輸血学会雑誌 2006; 52(2): 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
122	2006/09/27	60514	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚	日本	有効成分	無	無	無			
123	2006/09/27	60515	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ウシ乳	ポーランド、中国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
124	2006/09/27	60516	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ブタ臓臓	日本、カナダ	製造工程	無	無	無			
125	2006/09/27	60517	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	漿尿膜	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
126	2006/09/27	60518	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ皮膚	ウサギ	日本	製造工程	無	無	無			
127	2006/09/27	60519	ベネシス	①②ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン ③人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	人血液	①日本②③米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクンゲンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクンゲンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健康ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。RT-PCR試験を実施した112血清検体中11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関連があった。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白(PrPSc)の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrPScが吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrPScは生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型(MM, MV, VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝子型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	今回われわれは血液感染のハイリスクグループである血友病患者におけるHEV抗体の陽性頻度を調査した。その結果、調査した血友病患者80例の内の13例(16.3%)がHEV抗体陽性であった。過去の研究では日本人の供血者におけるHEV抗体の陽性率は3.7%、透析患者で9.4%と報告されており、血友病患者におけるHEV血液感染の可能性が示唆された。また、他のウイルスマーカーの陽性率については、HEV抗体陽性例と陰性例では差は見られなかったが、年齢が高い方がHEV抗体陽性例の割合が高かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Foreに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイパーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												パルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	今まで、凝固因子製剤のパルボウイルスB19遺伝子型2による汚染は報告されていないので、市販されている21製剤の202ロットを、パルボウイルスB19遺伝子型1と遺伝子型2のDNAについてPCRにより調べた。遺伝子型1のDNAが、現在投与されているロットの77/181(42.5%)に、1980年代初めまで使用されたロットの17/21(81%)に検出された。遺伝子型2のDNAは、5/202(2.5%)に見出され、その全てが遺伝子型1のDNAに汚染されていた。
128	2006/09/27	60520	ベネシス	①②③人血清アルブミン ④乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 ⑤乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	人血清アルブミン	人血液	①②④⑤日本 ③米国	①②③有効成分 ④⑤添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	60519に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60519に同じ
												パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	60519に同じ
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	60519に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60519に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60519に同じ
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	60519に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60519に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60519に同じ
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60519に同じ
												バルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60519に同じ
129	2006/09/27	60521	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子	血液凝固第Ⅳ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	60519に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60519に同じ
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	60519に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	60519に同じ
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	60519に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60519に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60519に同じ
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60519に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60519に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60519に同じ
												バルボウィルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60519に同じ
130	2006/09/27	60522	ベネシス	人血清アルブミン 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ 人ハプトグロビン 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	中国	製造工程	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2006; 000: 1-3	1970年～2003年にヒト硬膜に関連したCJD7例が英国で確認された。手術後発病までの期間は平均93ヶ月(45～177ヶ月)であった。さらに、世界で初めて、ブタ硬膜片レシーピエントでCJD1例を確認した。これらの症例の臨床的、病理学的特徴について述べている。
131	2006/09/28	60523	三菱ウェルファーマ	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア	有効成分	有	無	無	口蹄疫	OIE Disease Information 19(18) 2006年5月4日	中国における口蹄疫のFollow-up report No. 4(2006年3月29日から4月30日まで)。病因の同定-口蹄疫ウイルスセロタイプアジア1。新規アウトブレイクの詳細-青海省Haiyan郡。ウシ疑い例17例、症例4例、処分17例。ヒツジ/ヤギ疑い例14例、処分14例。ブタ疑い例3例、処分3例。
												E型肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1643-1649	IV型HEVについてヒトとブタ宿主との関係を調べるため、各々のウイルス保有率およびウイルスの遺伝的性質を調べ、また養豚場と感染のリスクとの関係を評価した。中国東部の2つの養豚地区では、ブタ9.6%、健康人0.3%で大便中からHEVが検出され、IV型サブタイプ2つが両者に共通していた。養豚に従事するヒトは他の職業のヒトより感染リスクが74%高く、養豚場の下流の住民は上流の住民より感染リスクが29%高かった。IV型HEVはブタからヒトへ自由に感染すると考えられる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
132	2006/09/28	60524	化学及血清療法研究所	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	抗破傷風人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクンゲンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクンゲンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクンゲンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。
133	2006/09/28	60746	伊藤ライフサイエンス	パルナバリンナトリウム	パルナバリンナトリウム	ブタ腸粘液	アルゼンチン	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	ProMED20060412-0060 Boston.com 2006年4月11日 PLoS Med 3(5): e218 2006年4月11日	60420に同じ
												炭疽	OIE Disease Information 19(19) 2006年5月11日、19(20) 2006年5月18日、19(28) 2006年7月13日	60420に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060730.2107 ProMED-mail20060802.2141 ProMED-mail20060806.2195 ProMED-mail20060808.2228 ProMED-mail20060811.2257	60420に同じ
134	2006/09/29	60430	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子	乾燥人血液凝固第Ⅳ因子	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
135	2006/09/29	60431	バクスター	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60430に同じ
136	2006/09/29	60432	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60430に同じ
137	2006/09/29	60433	バクスター	乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体	乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60430に同じ
138	2006/09/29	60434	バクスター	乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	中国	添加物	無	有	無			



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
139	2006/09/29	60435	東菱薬品工業	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液製剤	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液製剤	ウサギ皮膚	中華人民共和国	有効成分	有	無	無	レプトスピラ症	Int J Syst Evol Microbiol 2006; 56: 593-597	タンザニアではレプトスピラ症の感染率は家畜やげっ歯類で一般に高い。家畜から単離されたレプトスピラを血清学および分子学的に同定を行ったところ、RM1とコードされた単離体は、セログループIcterohaemorrhagiaeのL.kirschneri種の新しい変異型であり、Sokoineと名づけられた。
140	2006/09/29	60503	日新製薬	ダルテバリナトリウム製剤	ダルテバリナトリウム	ブタの小腸	中国	有効成分	無	無	無			
141	2006/09/29	60504	日新製薬	塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの気管	アメリカ合衆国、カナダ、ウルグアイ、アルゼンチン、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	無	無	無			
142	2006/09/29	60505	日本赤十字社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO <a href="http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html</a>	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストラリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。
												バルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	ヒトバルボウイルスB19DNA(1.6x10 <sup>8</sup> IU/mL)を含むプール血漿の輸血後、B19 IgG陽性の患者では抗体価が19-39 IU/mLから50-100 IU/mLに上昇して再感染を防いだ。それに対し、陰性の患者では、1.6-2.2 x 10 <sup>8</sup> IU/mLのB19DNAの存在下で、プール血漿のIgGレベルが59.5IU/mLではB19の伝播とセロコンバージョンを防ぐのは不十分であることがわかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	PrPcは全身の多数の組織に存在し、血小板に大量に存在する。静止血小板ではα顆粒膜上に存在することが知られているが、その生理学的機能は不明である。血小板中のPrPcの局在を調べたところ、血小板が活性化すると、血小板表面上にPrPcが一時的に発現し、続いて、微小胞およびエキソソーム上への放出が起こることが明らかとなった。血小板由来エキソソーム上にPrPcが存在するということは、血中でのPrPc輸送および細胞間伝播におけるメカニズムを示唆する。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement <a href="http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm">http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm</a>	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうることを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrPscが検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 http://www.sundayherald.com/54442	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイピーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイピーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクングンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジシマカの駆除を決定した。
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	2005年4月1日から2006年2月28日の間に、フランスで307例のチクングンヤ輸入例が同定された。平均年齢は47歳(7-81歳)であった。月別の輸入例数はレユニオンでの発生状況と関連が見られた。自発例は2006年3月に1例発生したが、輸入例患者を看護した看護師で、インド洋への旅行歴はなく、血液の暴露による感染と考えられた。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健康ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。RT-PCR試験を実施した112血清検体中11検体(9.8%)が陽性で、既知のVesivirusと関係があった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	2003年12月及び2005年4月に固形臓器の移植を受けた2つの患者群の感染症について調べた。レシビエント全員(8名)の検体からリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)が検出されたが、ドナー(2名)からは検出されなかった。2005年群のドナーはLCMVに感染したハムスターをペットとして飼っていたが、2003年群の感染源は不明であった。レシビエント8例中7例は移植後9日から76日で死亡した。
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	ヨーロッパでのB型肝炎発生率は北西部が低く(1%以下)、南部が高い(5-15%)。北西部では抗HBcスクリーニングが導入され、南部ではHBV-NATが導入される傾向がある。B型肝炎ウイルス陽性となった供血者と血液の管理に関して、ヨーロッパではHBV DNA、HBc抗体陽性でHBs抗体レベルが100IU/L以上の場合は供血を続けることができるというリエントリー・アルゴリズムが検討されている。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	輸血用血液製剤のHBV、HCV、HIVについて、2000年2月から2004年1月までの4年間の遡及調査を行った。調査は、主に複数回献血者において感染症マーカーが陽転した場合に前回の血液サンプルを個別NATで精査するもので、HBVについては50プールのNAT、HBsAg、HBcAbのいずれかの陽転例約16000人について前回の保管検体を調べた。副作用報告による感染例を合すると、日本では輸血によるHBV感染が1年に約19例、HCV感染は4年に1例、HIV感染は2年に1例起こるものと推定された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	医療機関において輸血後感染症の全数調査を実施したところ、輸血後陽転例はHBVで9例(0.9%)存在し、1例のみが輸血後B型肝炎と診断され、他の8例は感染晩期のHBVキャリアで再活性化が起こったと考えられた。HCVとHIVでは輸血後陽転例はみられなかった。
												B型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	日本の献血者におけるHBV NAT陽性者について解析したところ、20歳代ではHBV感染初期、50歳代、60歳代では感染晩期の陽性例が多かった。陽性数の高い地域は千葉県から愛知県までの太平洋側と大阪府であった。HBV Genotype Aは101例(女性1例)検出され、全国に広がる傾向が見られた。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	2005年に全国の医療機関から日本赤十字社へ報告された輸血感染症(疑い症例を含む)の現況とその傾向についての報告である。2005年輸血感染症症例(疑い症例を含む)報告数は12月22日現在260例で、内訳は、HBV:127、HCV:71、HEV:2、HIV:2、CMV:3、ヒトパルボウイルスB19:3、細菌:52であった。この内、輸血との因果関係が高いと評価した症例は、HBV:10例、HCV:1例、HEV:1例、ヒトパルボウイルスB19:3例であった。
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	スペインの肝臓及び消化器専門クリニック数施設における急性C型肝炎の全報告例についてレトロスペクティブ疫学解析を行った。1998年から2005年の急性C型肝炎患者103例を対象とした。大部分の症例で感染に関連する唯一の立証されたリスクファクターは入院であった。
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本ヘヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃進入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂食の大衆化と関連する。
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血しよ検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンブロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生の分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。
143	2006/09/29	60513	日本赤十字社	合成血	合成血	人血液	日本	有効成分	有	無	無	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	オランダで2002年11月に全国統一の皮膚消毒法(70%イソプロピルアルコールを用いたダブルスワブ消毒)が導入された。2002年から2003年に、プールされた軟層由来の濃縮血小板113,093例をスクリーニングしたところ、新消毒法導入後の初回陽性は0.85%で、導入前の0.95%と比べ、わずかな減少があった。初流血除去バッグを使用していた施設では細菌汚染の頻度は有意に低く、新消毒法導入前は0.5%、導入後は0.37%であった。アフエレーシス濃縮血小板は8000例中24例(0.3%)が初回陽性であった。
												細菌感染	Transfusion 2006; 46: 305-309	血小板供血歴の長い、無症候性の58歳男性由来の血小板が単球症リステリア陽性であった。バルスフィールドゲル電気泳動パターンはCDCデータベース中の他の2例の単球症リステリア分離株と一致したが、疫学的な関連性は見られなかった。
												マラリア	CDC 2006年6月30日	米国疾病対策予防センターは、バハマのグレートエグズーマ島におけるマラリア発生を確認し、旅行者に対して抗マラリア薬の使用を勧告した。2006年6月29日現在、患者数は合計18例で、うち4例が旅行者である。全員Plasmodium falciparumに感染していた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	ProMED-mail20060624.1758	キルギスタンの首都で79例のマラリア症例が登録された。予防手段を講じているにもかかわらず、流行が拡大中である。住民に問題を理解させるのが難しく、衛生疫学監視センターの職員は時々しか殺虫剤を散布できない。
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。
												バルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	ヒトバルボウイルスB19DNA(1.6x10 <sup>8</sup> IU/mL)を含むプール血漿の輸血後、B19 IgG陽性の患者では抗体価が19-39 IU/mLから50-100 IU/mLに上昇して再感染を防いだ。それに対し、陰性の患者では、1.6-2.2 x 10 <sup>8</sup> IU/mLのB19DNAの存在下で、プール血漿のIgGレベルが59.5 IU/mLではB19の伝播とセロコンバージョンを防ぐのは不十分であることがわかった。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	PrPcは全身の多数の組織に存在し、血小板に大量に存在する。静止血小板ではα顆粒膜上に存在することが知られているが、その生理学的機能は不明である。血小板中のPrPcの局在を調べたところ、血小板が活性化すると、血小板表面上にPrPcが一時的に発現し、続いて、微小胞およびエキソソーム上への放出が起こることが明らかとなった。血小板由来エキソソーム上にPrPcが存在するという事は、血中でのPrPc輸送および細胞間伝播におけるメカニズムを示唆する。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement <a href="http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm">http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm</a>	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうことを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrPscが検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sundayherald.com/54442</a>	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイビーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイビーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクングンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジマカの駆除を決定した。
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	2005年4月1日から2006年2月28日の間に、フランスで307例のチクングンヤ輸入例が同定された。平均年齢は47歳(7-81歳)であった。月別の輸入例数はレユニオンでの発生状況と関連が見られた。自発例は2006年3月に1例発生したが、輸入例患者を看護した看護師で、インド洋への旅行歴はなく、血液の暴露による感染と考えられた。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。RT-PCR試験を実施した112血清検体中11検体(9.8%)が陽性で、既知のVesivirusと関係があった。
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	2003年12月及び2005年4月に固形臓器の移植を受けた2つの患者群の感染症について調べた。レシピエント全員(8名)の検体からリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)が検出されたが、ドナー(2名)からは検出されなかった。2005年群のドナーはLCMVに感染したハムスターをペットとして飼っていたが、2003年群の感染源は不明であった。レシピエント8例中7例は移植後9日から76日で死亡した。
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	ヨーロッパでのB型肝炎発生率は北西部が低く(1%以下)、南部が高い(5-15%)。北西部では抗HBcスクリーニングが導入され、南部ではHBV-NATが導入される傾向がある。B型肝炎ウイルス陽性となった供血者と血液の管理に関して、ヨーロッパではHBV DNA、HBc抗体陽性でHBs抗体レベルが100IU/L以上の場合は供血を続けることができるというリエントリー・アルゴリズムが検討されている。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	輸血用血液製剤のHBV、HCV、HIVについて、2000年2月から2004年1月までの4年間の遡及調査を行った。遡及調査は、主に複数回献血者において感染症マーカーが陽転した場合に前回の血液サンプルを個別NATで精査するもので、HBVについては50プールのNAT、HBsAg、HBcAbのいずれかの陽転例約16000人について前回の保管検体を調べた。副作用報告による感染例をあわせると、日本では輸血によるHBV感染が1年に約19例、HCV感染は4年に1例、HIV感染は2年に1例起こるものと推定された。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	医療機関において輸血後感染症の全数調査を実施したところ、輸血後陽転例はHBVで9例(0.9%)存在し、1例のみが輸血後B型肝炎と診断され、他の8例は感染晩期のHBVキャリアで再活性化が起こったと考えられた。HCVとHIVでは輸血後陽転例はみられなかった。
												B型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	日本の献血者におけるHBV NAT陽性者について解析したところ、20歳代ではHBV感染初期、50歳代、60歳代では感染晩期の陽性例が多かった。陽性数の高い地域は千葉県から愛知県までの太平洋側と大阪府であった。HBV Genotype Aは101例(女性1例)検出され、全国に広がる傾向が見られた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	2005年に全国の医療機関から日本赤十字社へ報告された輸血感染症(疑い症例を含む)の現況とその傾向についての報告である。2005年輸血感染症症例(疑い症例を含む)報告数は12月22日現在260例で、内訳は、HBV: 127、HCV: 71、HEV: 2、HIV: 2、CMV: 3、ヒトパルボウイルスB19: 3、細菌: 52であった。この内、輸血との因果関係が高いと評価した症例は、HBV: 10例、HCV: 1例、HEV: 1例、ヒトパルボウイルスB19: 3例であった。
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	スペインの肝臓及び消化器専門クリニック数施設における急性C型肝炎の全報告例についてレトロスペクティブ疫学解析を行った。1998年から2005年の急性C型肝炎患者103例を対象とした。大部分の症例で感染に関連する唯一の立証されたリスクファクターは入院であった。
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本へヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃進入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂食の大衆化と関連する。
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血しょう検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンブロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生的分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
144	2006/10/02	60526	沢井製薬	ダルテバリンナトリウム	ダルテバリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
145	2006/10/02	60527	沢井製薬	トロンビン	トロンビン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン	有効成分	無	無	無			
146	2006/10/02	60528	ニプロファーマ	コンドロイチン硫酸ナトリウム・サリチル酸ナトリウム	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの軟骨	米国	有効成分	無	無	無			
147	2006/10/02	60529	ニプロファーマ	ヘパリンナトリウム注射液 ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア	有効成分	無	無	無			
148	2006/10/05	60530	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活性化狂犬病ワクチン	胚初代培養細胞	ニワトリ	日本、米国、メキシコ	製造工程	無	無	無			
149	2006/10/05	60531	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活性化狂犬病ワクチン	トリブシン	ブタ膀胱	カナダ、米国	製造工程	無	無	無			
150	2006/10/05	60532	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
151	2006/10/05	60533	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	血液	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
152	2006/10/05	60534	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	パンクレアチン	ブタ膵臓	カナダ、イタリア、米国	製造工程	無	無	無			
153	2006/10/05	60535	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	アボセルロプラスミン	ヒト血液	日本	製造工程	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽喉頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクンゲンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクンゲンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクンゲンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
154	2006/10/05	60536	日医工	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
155	2006/10/05	60537	日医工	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
156	2006/10/02	60538	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XIII因子	アプロチニン液	ウシ肺臓	ウルグアイ	有効成分	無	無	無			
157	2006/10/04	60539	宇治製薬	コンドロイチン硫酸鉄コロイド	コンドロイチン硫酸ナトリウム	牛の軟骨	米国	添加物	無	無	無			
158	2006/10/05	60540	ZLBベリング	フィブリノゲン加第XIII因子	フィブリノゲン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	海洋起源のVesivirus感染がヒトでどの程度広がっているかを調べた。供血基準をクリアした供血者群、ALT値が高いため供血不可であった供血者群、非A-G肝炎患者群、および輸血または透析に関連した肝炎患者群由来の血清をVesivirusに対する抗体ならびにゲノムについて検査した。Vesivirusビリオンに対する血清陽性は、各々、12%、21%、29%、47%であった。RT-PCRの結果、SMSV Vesivirusなどとの関連性が示され、感染がヒトに広くみられることが明らかになった。
159	2006/10/05	60541	ZLBベリング	フィブリノゲン加第XIII因子	トロンビン末	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60540に同じ



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
160	2006/10/05	60542	ZLBベリング	フィブリノゲン加第XIII因子	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
161	2006/10/05	60543	ZLBベリング	フィブリノゲン加第XIII因子	アンチトロンビン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	製造工程	有	有	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60540に同じ
162	2006/10/05	60544	デンカ生研	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	ヒツジ血液	ヒツジの血液	製造中止	製造工程	無	無	無			
163	2006/10/05	60545	デンカ生研	ワイル病秋やみ混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン コレラワクチン	ポリペプトン	ウシの乳	中国又はポーランド	製造工程	無	無	無			
164	2006/10/05	60546	デンカ生研	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
165	2006/10/05	60547	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド	カザミノ酸	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
166	2006/10/05	60548	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 破傷風トキソイド	ハートエキス	ウシの心臓	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
167	2006/10/05	60549	デンカ生研	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウスの脳	日本	製造工程	有	無	無	ハンタウイルス	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(22): 627-629	2006年1月から3月にかけて、米国ではArizona, New Mexico, North Dakota, Texas, Washingtonの5つの州で計9例のハンタウイルス肺症候群ヒト確定症例が報告された。2005年に降水量が多く、げっ歯類が増加したことが原因として考えられ、2006年度はヒトでの感染の危険性が高くなることが示唆される。
168	2006/10/05	60550	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきワクチン 破傷風トキソイド	ペプトン	ブタの胃	日本又はアメリカ	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2006; 80(S): 297 第80回日本感染症学会総会学術講演会	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。串焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。
												E型肝炎	日本輸血学会雑誌/第54回日本輸血学会総会 2006; 52(2): 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。
169	2006/10/05	60551	デンカ生研	日本脳炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
170	2006/10/05	60552	デンカ生研	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止	製造工程	無	無	無			
171	2006/10/05	60553	デンカ生研	ウイルス病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギの血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
172	2006/10/05	60554	デンカ生研	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	尿膜腔液	ニワトリの受精卵	日本	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
173	2006/10/05	60555	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン ジフテリアトキソイド 破傷風トキソイド コレラワクチン	スキムミルク	ウシの乳	日本又はアメリカ	製造工程	無	無	無			
174	2006/10/06	60556	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ウシ血液	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
175	2006/10/06	60557	武田薬品工業	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウサギ腎細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
176	2006/10/10	60558	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	SPFウズラ胚	SPF発育ウズラ卵	日本	製造工程	無	無	無			
177	2006/10/10	60559	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	SPFニワトリ胚	SPF発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	J Gen Virol 2006; 87: 1823-1833	中国 Qinghai 湖で2005年5月から7月に高病原性H5N1トリインフルエンザウイルスのアウトブレイクにより、何千もの野生の渡り水鳥が死亡した。この時に収集されたガチョウから単離したH5N1インフルエンザウイルス(Bh H5N1ウイルス)を分析した。遺伝子分析の結果、Bh H5N1ウイルスは再配列ウイルスであり、PB2遺伝子の627位のアミノ酸残基(リジン)は、ヒトH5N1ウイルス(A/HK/483/97)と同じであり、GenBankにあるH5N1トリインフルエンザウイルスとは異なっていた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
178	2006/10/10	60560	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
179	2006/10/10	60561	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 乾燥まむし抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥破傷風抗毒素	ウマ血清	ウマの血清	米国	製造工程	有	無	無	ウエストナイルウイルス	OIE 2006年4月19日	2006年4月19日にアルゼンチンで初めて、ウエストナイル熱が確定診断された。Buenos Aires州San Antonio de Arecoの2つの農場で飼育されていたウマ2頭で2頭とも死亡した。
180	2006/10/10	60562	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ラクトビオン酸エリスロマイシン	ウシの乳	オランダ、米国、カナダ、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
181	2006/10/10	60563	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	ガザミノ酸	ウシの乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
182	2006/10/10	60564	阪大微生物病研究会	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	コレステロール	ヒツジの毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
183	2006/10/10	60565	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	トリブシン	ブタの臓腑	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
184	2006/10/10	60566	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ニワトリ肉エキス	ニワトリの肉、骨	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	J Gen Virol 2006; 87: 1823-1833	中国 Qinghai湖で2005年5月から7月に高病原性H5N1トリインフルエンザウイルスのアウトブレイクにより、何千もの野生の渡り水鳥が死亡した。この時に収集されたガチョウから単離したH5N1インフルエンザウイルス(Bh H5N1ウイルス)を分析した。遺伝子分析の結果、Bh H5N1ウイルスは再配列ウイルスであり、PB2遺伝子の627位のアミノ酸残基(リジン)は、ヒトH5N1ウイルス(A/HK/483/97)と同じであり、GenBankにあるH5N1トリインフルエンザウイルスとは異なっていた。
185	2006/10/10	60567	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ブタ肉エキス	ブタの肉、脂肪	日本	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
186	2006/10/10	60568	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ペプトン	ウシの乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
187	2006/10/10	60569	阪大微生物病研究会	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウスの脳	マウス	日本	製造工程	無	無	無			
188	2006/10/10	60570	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	牛肉消化液	ウシの筋肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
189	2006/10/10	60571	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン	人血清アルブミン	ヒトの血液	該当なし(製造中止品目)	添加物	無	無	無			
190	2006/10/10	60572	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	脱繊維牛血液	ウシの血液	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
191	2006/10/10	60573	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	乳糖	ウシの乳	オランダ、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
192	2006/10/10	60574	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原	MRC-5	ヒト胎児肺二倍体細胞		製造工程	無	無	無			
193	2006/10/10	60575	阪大微生物病研究会	乾燥痘そうワクチン 痘そうワクチン	ウシの皮膚	ウシの皮膚	該当なし(製造中止品目)	製造工程	無	無	無			
194	2006/10/10	60576	沢井製薬	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	ProMED20060506-0070	生きたH5N1型トリインフルエンザウイルスがヒト死亡例の血清から分離可能であるとのタイの研究者の報告が科学誌(Emerg Infect Dis 2006年7月)に掲載予定である。ウイルスが血中に存在することから、患者治療と感染予防の両面で特別な配慮が必要である。
195	2006/10/10	60577	小林化工	コンドロイチン硫酸ナトリウム・サリチル酸ナトリウム	コンドロイチン硫酸ナトリウム	サメの軟骨		有効成分	無	無	無			
196	2006/10/10	60578	日本化薬	BCG・コンノート株	乾燥BCG膀胱内用(コンノート株)	牛型結核菌生菌	カナダ	有効成分	無	無	無			
197	2006/10/11	60579	あすか製薬	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			
198	2006/10/11	60580	あすか製薬	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			
199	2006/10/12	60581	富士製薬工業	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	妊婦の尿抽出物	中国、ブラジル	有効成分	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
200	2006/10/12	60582	富士製薬工業	トロンビン	トロンビン	ウシの血液	ニュージーランド、米国、オーストラリア	有効成分	無	無	無			
201	2006/10/12	60583	富士製薬工業	トロンビン	トロンボプラスチン	ウシまたはブタの肺	ウシ:ニュージーランド ブタ:デンマーク	製造工程	無	無	無			
202	2006/10/12	60584	サノフィバスターズ第一ワクチン	黄熱ワクチン	発育鶏胚	発育鶏卵	米国	製造工程	無	無	無			
203	2006/10/13	60585	シオノケミカル	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	イタリア	有効成分	有	無	無	細菌感染	MMWR 2006; 55: 961-963	2004年12月から2005年2月に、汚染されたヘパリンフラッシュに関連した蛍光菌血流感染が4つの州で36人の患者に発生し、製品回収が行われた。その約3ヶ月後にミシガンとサウスダコタで蛍光菌感染患者が同定され、2006年4月現在、ミシガンで15例、サウスダコタで13例が、遅発性蛍光菌血流感染と診断された。発症までの期間は84日から421日であった。
204	2006/10/13	60586	高田製薬	ウリナスチタン	ウリナスチタン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			
205	2006/10/17	60587	東菱薬品工業	バトロキソピン	バトロキソピン	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			
206	2006/10/17	60588	中外製薬	レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチン ベータ(遺伝子組換え)	ブタインスリン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
207	2006/10/17	60589	中外製薬	①トラスツズマブ(遺伝子組換え) ②ストレプトコックスピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	パンクレアチン	ブタ膵臓	①米国、カナダ ②日本、米国、カナダ、フランス	製造工程	無	無	無			



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
208	2006/10/17	60590	中外製薬	レノグラスチム(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血漿	不明	製造工程	無	無	無			
209	2006/10/17	60591	中外製薬	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ペプシン	ブタ胃液	不明	製造工程	無	無	無			
210	2006/10/17	60592	中外製薬	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ブタラードウォーター	ブタ脂肪	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
211	2006/10/17	60593	中外製薬	トラスツズマブ(遺伝子組換え) レノグラスチム(遺伝子組換え) エボエチン ベータ(遺伝子組換え) トシリズマブ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター 卵巣細胞	チャイニーズハムスター 卵巣	不明	製造工程	無	無	無			
212	2006/10/17	60594	中外製薬	レノグラスチム(遺伝子組換え) エボエチン ベータ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシ血清	米国、オーストラリア、 ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
213	2006/10/17	60595	中外製薬	レノグラスチム(遺伝子組換え) エボエチン ベータ(遺伝子組換え)	DMEM/F12	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
214	2006/10/17	60596	中外製薬	トシリズマブ(遺伝子組み換え)注	ガラクトース	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
215	2006/10/17	60597	中外製薬	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	プリマドン HS/UF	ウシ脾臓、心臓、 ウマ脾臓、脛肉、 ブタラードウォーター	ウシ:米国 ウマ:米国、 カナダ ブタ:米国、 カナダ	製造工程	無	無	無			
216	2006/10/17	60598	サノフィ・アベンティス	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	ウマ血漿	フランス	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
217	2006/10/17	60599	サノフィ・アベンティス	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	赤血球ストローマ	ヒト血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
218	2006/10/17	60600	サノフィ・アベンティス	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胸腺細胞	ヒト胸腺	ベルギー、スペイン、フランス、イタリア等	製造工程	無	無	無			
219	2006/10/17	60601	サノフィ・アベンティス	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胎盤組織	ヒト胎盤	フランス	製造工程	無	無	無			
220	2006/10/18	60602	ベネシス	乾燥抗HBs人免疫グロブリン ポリエチレングリコール処理抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健康ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。RT-PCR試験を実施した112血清検体中11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関連があった。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白(PrPSc)の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrPScが吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrPScは生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型(MM, MV, VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	今回われわれは血液感染のハイリスクグループである血友病患者におけるHEV抗体の陽性頻度を調査した。その結果、調査した血友病患者80例の内の13例(16.3%)がHEV抗体陽性であった。過去の研究では日本人の供血者におけるHEV抗体の陽性率は3.7%、透析患者で9.4%と報告されており、血友病患者におけるHEV血液感染の可能性が示唆された。また、他のウイルスマーカーの陽性率については、HEV抗体陽性例と陰性例では差は見られなかったが、年齢が高い方がHEV抗体陽性例の割合が高かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Foreに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイビーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												バルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	今まで、凝固因子製剤のバルボウイルスB19遺伝子型2による汚染は報告されていないので、市販されている21製剤の202ロットを、バルボウイルスB19遺伝子型1と遺伝子型2のDNAについてPCRにより調べた。遺伝子型1のDNAが、現在投与されているロットの77/181(42.5%)に、1980年代初めまで使用されたロットの17/21(81%)に検出された。遺伝子型2のDNAは、5/202(2.5%)に見出され、その全てが遺伝子型1のDNAに汚染されていた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
221	2006/10/18	60603	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	ヤギIgG	ヤギ血液	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
222	2006/10/18	60604	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	マウスモノクローナル抗体	マウス脾臓細胞と骨髄腫細胞のハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	無			
223	2006/10/18	60605	化学及血清療法研究所	人免疫グロブリン ヒスタミン加人免疫グロブリン製剤	免疫グロブリン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
224	2006/10/18	60606	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XIII因子	人フィブリノゲン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60605に同じ
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	60605に同じ
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	60605に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60605に同じ
225	2006/10/18	60607	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XIII因子	人血液凝固第XIII因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60605に同じ
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	60605に同じ
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	60605に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60605に同じ
226	2006/10/18	60608	化学及血清療法研究所	①フィブリノゲン加第ⅨⅢ因子 ②乾燥濃縮人活性化プロテインC ③トロンビン	トロンビン	ヒト血液	日本	①③有効成分 ②製造工程	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60605に同じ
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	60605に同じ
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	60605に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60605に同じ
227	2006/10/18	60609	化学及血清療法研究所	①ボルヒール ②乾燥濃縮人活性化プロテインC ③乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子 ④乾燥スルホ化人免疫グロブリン ⑤人血清アルブミン ⑥乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	⑤有効成分 ⑤以外：添加物	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60605に同じ
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	60605に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	60605に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60605に同じ
228	2006/10/18	60610	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC	プロテインC	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60605に同じ
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	60605に同じ
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	60605に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60605に同じ
229	2006/10/18	60611	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	マウス由来モノクローナル抗体	マウス脾臓	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Arch Virol 2006 Published online Feb 26, 2006	2004年初頭、日本で発生した高病原性トリインフルエンザで死亡したニワトリから単離されたA/chicken/Yamaguchi/7/04(H5N1)ウイルスを、ニワトリ、ウズラ、セキセイインコ、コガモ、マウス、ミニブタに経鼻で接種し、実験的に感染させることにより病原性を評価した。このウイルスは調べられた全てのトリで高病原性を示し、ニワトリは接種後4日以内に6例全て死亡し、ウイルスは呼吸器、肝臓、腎臓、大腸、脳から検出されたが、血液からは検出されなかった。マウスは感染に感受性はあるが、致死率は低かった。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
230	2006/10/18	60612	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC	インスリン	ウシ膵臓	米国	製造工程	無	無	無			
231	2006/10/18	60613	化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	デオキシリボヌクレアーゼI	ウシ膵臓	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
232	2006/10/18	60614	化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	リボヌクレアーゼA	ウシ膵臓	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
233	2006/10/20	60615	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ミドリザル腎臓細胞	ミドリザルの腎臓	日本	製造工程	無	有	無			
234	2006/10/20	60616	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ウシ血清	ウシの血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	有	無			
235	2006/10/20	60617	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ラクトアルブミン	ウシの乳	ニュージーランド	添加物	無	有	無			
236	2006/10/20	60618	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	トリブシン	ブタの膵臓	アメリカ・カナダ	製造工程	無	有	無			
237	2006/10/20	60619	ZLBベリング	抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストラリア	有効成分	有	有	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	海洋起源のVesivirus感染がヒトでどの程度広がっているかを調べた。供血基準をクリアした供血者群、ALT値が高いため供血不可であった供血者群、非A-G肝炎患者群、および輸血または透析に関連した肝炎患者群由来の血清をVesivirusに対する抗体ならびにゲノムについて検査した。Vesivirusビリオンに対する血清陽性は、各々、12%、21%、29%、47%であった。RT-PCRの結果、SMSV Vesivirusなどとの関連性が示され、感染がヒトに広くみられることが明らかになった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
238	2006/10/20	60620	ZLBベアリング	フィブリノゲン加第Ⅷ因子 人血液凝固第Ⅷ因子	人血液凝固第Ⅷ因子	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60619と同じ
239	2006/10/20	60621	ZLBベアリング	人免疫グロブリン	人免疫グロブリン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60619と同じ
240	2006/10/24	60622	武田薬品工業	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	ウシノ乳由来成分	ウシノ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
241	2006/10/24	60623	武田薬品工業	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、バルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
242	2006/10/25	60624	日本臓器製薬	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
243	2006/10/25	60625	日本臓器製薬	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ウシ乳児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
244	2006/10/25	60626	日本臓器製薬	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ芽球免疫ウサギ血清	ドイツ、ハンガリー	有効成分	無	無	無			
245	2006/10/25	60627	日本臓器製薬	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ヒト胎盤ホモジネート	ヒト胎盤	ドイツ	製造工程	無	無	無			
246	2006/10/25	60628	日本臓器製薬	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ヒト赤血球	ヒト血液	ドイツ	製造工程	無	無	無			
247	2006/10/25	60629	日本臓器製薬	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ芽球(JM細胞株)	ヒト(急性リンパ性白血病患者)末梢血	ドイツ	製造工程	無	無	無			
248	2006/10/25	60630	日本臓器製薬	低分子ヘパリン	低分子ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
249	2006/10/25	60631	第一アスビオファーマ	インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	ウイルス感染	ProMED20060414-0010 Peninsula On-line 2006年4月13日	中国北部の高校で、未確認ウイルスにより生徒1人が死亡し、30人が39℃以上の高熱で入院した。保健当局は、流行が新型肺炎と鳥インフルエンザではないとした。生徒が寒空の中でスポーツ大会に参加した後、流行が発生した。
												感染	ProMED20060419-0050 Times of India 2006年4月17日	インドのJamnagar地方のSalaya村で、原因不明熱のため、3日間に3人が死亡し、1,000人以上が発症した。患者は高熱と強い痛み、特に関節の痛みを訴えた。血液サンプルの試験結果が出るまで何も言えないが、症状はウイルス熱を示している。
												感染	ProMED-mail20060602.1540 Namibian 2006年6月2日	ナミビアのKatutura郊外北部で、3人が死亡し、19人が未確認の疾病で入院した。当局は、疾病がKhomas地方に限定されないこと、患者がOtjozondjupaとHardap地方で報告されたことを報じた。サンプルが分析のために南アフリカに送られた。患者全員が末梢神経系に障害を生じるギランバレー症候群であったおそれがあるが、医療関係者は否定している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染	ProMED-mail20060622.1727	原因不明の神経学的症候群により、ブラジルMaranhao州の南部地方で7人が死亡し、24人が入院した。大部分の患者は、15～49歳の若い農業労働者であった。症状は、足の知覚異常、歩行困難と呼吸不全で、心障害を経て死に至る。人から人へは伝染しないと思われる。血、糞便、皮膚と髪が試験検査に出され、分析はまだ終了していない。
												感染	ProMED-mail20060728.2088	未知の疾病により、ネパールのHatiya村で7人が死亡し、大部分の住民が苦しんでいる。症状は頭痛、高熱、めまいで、14～15日後に患者は下痢で苦しみ、衰弱し、死に至ることさえある。疾病はほとんど全村に広がった。村長は死亡数が増加するだろうと言った。
												感染	ProMED-mail20060811.2248	原因不明の疾病により、インドAllahabad地方のKoraon街で数人が死亡し、1人の患者が重態で入院した。疾病の診断は未確定である。
												感染	ProMED-mail20060820.2339 People's Daily Online 2006年8月19日	未確認の疾病の流行により、ネパールのNetini村で7人の子供を含む少なくとも14人が死亡した。症状は、死亡時に鼻と口からの出血を伴う高熱である。疾病は、2006年6月の最後の週にイヌとニワトリで最初にみられ、住民に広がった。
250	2006/10/25	60632	日本赤十字社	洗浄人赤血球浮遊液	洗浄人赤血球浮遊液	人血液	日本	有効成分	有	無	無	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	オランダで2002年11月に全国統一の皮膚消毒法(70%イソプロピルアルコールを用いたダブルスワブ消毒)が導入された。2002年から2003年に、プールされた軟層由来の濃縮血小板113,093例をスクリーニングしたところ、新消毒法導入後の初回陽性は0.85%で、導入前の0.95%と比べ、わずかな減少であった。初流血除去バッグを使用していた施設では細菌汚染の頻度は有意に低く、新消毒法導入前は0.5%、導入後は0.37%であった。アフエレーシス濃縮血小板は8000例中24例(0.3%)が初回陽性であった。
												マラリア	CDC 2006年6月30日	米国疾病対策予防センターは、パハマのグレートエグズーマ島におけるマラリア発生を確認し、旅行者に対して抗マラリア薬の使用を勧告した。2006年6月29日現在、患者数は合計18例で、うち4例が旅行者である。全員Plasmodium falciparumに感染していた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	ProMED-mail20060624.1758	キルギスタンの首都で79例のマラリア症例が登録された。予防手段を講じているにもかかわらず、流行が拡大中である。住民に問題を理解させるのが難しく、衛生疫学監視センターの職員は時々しか殺虫剤を散布できない。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。
												バルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	ヒトバルボウイルスB19DNA(1.6x10 <sup>8</sup> IU/mL)を含むプール血漿の輸血後、B19 IgG陽性の患者では抗体価が19-39 IU/mLから50-100 IU/mLに上昇して再感染を防いだ。それに対し、陰性の患者では、1.6-2.2 x 10 <sup>8</sup> IU/mLのB19DNAの存在下で、プール血漿のIgGレベルが59.5 IU/mLではB19の伝播とセロコンバージョンを防ぐのは不十分であることがわかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	PrPcは全身の多数の組織に存在し、血小板に大量に存在する。静止血小板ではα顆粒膜上に存在することが知られているが、その生理学的機能は不明である。血小板中のPrPcの局在を調べたところ、血小板が活性化すると、血小板表面上にPrPcが一時的に発現し、続いて、微小胞およびエキソソーム上への放出が起こることが明らかとなった。血小板由来エキソソーム上にPrPcが存在するという事は、血中でのPrPc輸送および細胞間伝播におけるメカニズムを示唆する。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrP <sup>Sc</sup> が検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sundayherald.com/54442</a>	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイピーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイパーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月21日	アイルランド輸血サービスは、CJDの病因となるプリオンを供血血液から除去するために開発された新しい装置を1年間使用した後、試用の中止を決定した。血液サービスは昨年、そのフィルター装置を購入したが、十分な効果が得られず、CJDプリオンは捕捉されずに通過し、供血中に混入する可能性があるためである。
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	2005年4月1日から2006年2月28日の間に、フランスで307例のチングンヤ輸入例が同定された。平均年齢は47歳(7-81歳)であった。月別の輸入例数はレユニオンでの発生状況と関連が見られた。自発例は2006年3月に1例発生したが、輸入例患者を看護した看護師で、インド洋への旅行歴はなく、血液の暴露による感染と考えられた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健康ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。RT-PCR試験を実施した112血清検体中11検体(9.8%)が陽性で、既知のVesivirusと関係があった。
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	2003年12月及び2005年4月に固形臓器の移植を受けた2つの患者群の感染症について調べた。レシピエント全員(8名)の検体からリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)が検出されたが、ドナー(2名)からは検出されなかった。2005年群のドナーはLCMVに感染したハムスターをペットとして飼っていたが、2003年群の感染源は不明であった。レシピエント8例中7例は移植後9日から76日で死亡した。
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	2005年12月以降、チクングンヤウイルス感染のアウトブレイクがインドの8つの州で続いており、拡大するおそれがある。最も被害の大きい5つの州では896500例以上の疑い例が報告されている。北部の州からは1例も報告されていない。ヨーロッパの多数の国で輸入症例が報告されている。感染の拡大防止ならびに特異的な抗ウイルス薬とワクチンの開発が急務である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	ヨーロッパでのB型肝炎発生率は北西部が低く(1%以下)、南部が高い(5-15%)。北西部では抗HBcスクリーニングが導入され、南部ではHBV-NATが導入される傾向がある。B型肝炎ウイルス陽性となった供血者と血液の管理に関して、ヨーロッパではHBV DNA、HBc抗体陽性でHBs抗体レベルが100IU/L以上の場合は供血を続けることができるというリエントリー・アルゴリズムが検討されている。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	輸血用血液製剤のHBV、HCV、HIVについて、2000年2月から2004年1月までの4年間の遡及調査を行った。遡及調査は、主に複数回献血者において感染症マーカーが陽転した場合に前回の血液サンプルを個別NATで精査するもので、HBVについては50プールのNAT、HBsAg、HBcAbのいずれかの陽転例約16000人について前回の保管検体を調べた。副作用報告による感染例をあわせると、日本では輸血によるHBV感染が1年に約19例、HCV感染は4年に1例、HIV感染は2年に1例起こるものと推定された。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	医療機関において輸血後感染症の全数調査を実施したところ、輸血後陽転例はHBVで9例(0.9%)存在し、1例のみが輸血後B型肝炎と診断され、他の8例は感染晩期のHBVキャリアで再活性化が起こったと考えられた。HCVとHIVでは輸血後陽転例はみられなかった。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	日本の献血者におけるHBV NAT陽性者について解析したところ、20歳代ではHBV感染初期、50歳代、60歳代では感染晩期の陽性例が多かった。陽性数の高い地域は千葉県から愛知県までの太平洋側と大阪府であった。HBV Genotype Aは101例(女性1例)検出され、全国に広がる傾向が見られた。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	2005年に全国の医療機関から日本赤十字社へ報告された輸血感染症(疑い症例を含む)の現況とその傾向についての報告である。2005年輸血感染症症例(疑い症例を含む)報告数は12月22日現在260例で、内訳は、HBV: 127、HCV: 71、HEV: 2、HIV: 2、CMV: 3、ヒトパルボウイルスB19: 3、細菌: 52であった。この内、輸血との因果関係が高いと評価した症例は、HBV: 10例、HCV: 1例、HEV: 1例、ヒトパルボウイルスB19: 3例であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	スペインの肝臓及び消化器専門クリニック数施設における急性C型肝炎の全報告例についてレトロスペクティブ疫学解析を行った。1998年から2005年の急性C型肝炎患者103例を対象とした。大部分の症例で感染に関連する唯一の立証されたリスクファクターは入院であった。
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本ヘヨークシャ種のパタが輸入された1900年頃進入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂食の大衆化と関連する。
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血しょう検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンブロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生的分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。
251	2006/10/25	60633	日本赤十字社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												バルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	ヒトバルボウイルスB19DNA(1.6x10 <sup>8</sup> IU/mL)を含むプール血漿の輸血後、B19 IgG陽性の患者では抗体価が19-39 IU/mLから50-100 IU/mLに上昇して再感染を防いだ。それに対し、陰性の患者では、1.6-2.2 x 10 <sup>8</sup> IU/mLのB19DNAの存在下で、プール血漿のIgGレベルが59.5IU/mLではB19の伝播とセロコンバージョンを防ぐのは不十分であることがわかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	PrPcは全身の多数の組織に存在し、血小板に大量に存在する。静止血小板ではα顆粒膜上に存在することが知られているが、その生理学的機能は不明である。血小板中のPrPcの局在を調べたところ、血小板が活性化すると、血小板表面上にPrPcが一時的に発現し、続いて、微小胞およびエキソソーム上への放出が起こることが明らかとなった。血小板由来エキソソーム上にPrPcが存在するということは、血中でのPrPc輸送および細胞間伝播におけるメカニズムを示唆する。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrPscが検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sundayherald.com/54442</a>	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイビーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイピーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月21日	アイルランド輸血サービスは、CJDの病因となるプリオンを供血血液から除去するために開発された新しい装置を1年間使用した後、試用の中止を決定した。血液サービスは昨年、そのフィルター装置を購入したが、十分な効果が得られず、CJDプリオンは捕捉されずに通過し、供血中に混入する可能性があるためである。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	2005年4月1日から2006年2月28日の間に、フランスで307例のチクングンヤ輸入例が同定された。平均年齢は47歳(7-81歳)であった。月別の輸入例数はレユニオンでの発生状況と関連が見られた。自発例は2006年3月に1例発生したが、輸入例患者を看護した看護師で、インド洋への旅行歴はなく、血液の暴露による感染と考えられた。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。RT-PCR試験を実施した112血清検体中11検体(9.8%)が陽性で、既知のVesivirusと関係があった。
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	2003年12月及び2005年4月に固形臓器の移植を受けた2つの患者群の感染症について調べた。レシピエント全員(8名)の検体からリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)が検出されたが、ドナー(2名)からは検出されなかった。2005年群のドナーはLCMVに感染したハムスターをペットとして飼っていたが、2003年群の感染源は不明であった。レシピエント8例中7例は移植後9日から76日で死亡した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	2005年12月以降、チクングンヤウイルス感染のアウトブレイクがインドの8つの州で続いており、拡大するおそれがある。最も被害の大きい5つの州では896500例以上の疑い例が報告されている。北部の州からは1例も報告されていない。ヨーロッパの多数の国で輸入症例が報告されている。感染の拡大防止ならびに特異的な抗ウイルス薬とワクチンの開発が急務である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	ヨーロッパでのB型肝炎発生率は北西部が低く(1%以下)、南部が高い(5-15%)。北西部では抗HBcスクリーニングが導入され、南部ではHBV-NATが導入される傾向がある。B型肝炎ウイルス陽性となった供血者と血液の管理に関して、ヨーロッパではHBV DNA、HBc抗体陽性でHBs抗体レベルが100IU/L以上の場合には供血を続けることができるというエントリー・アルゴリズムが検討されている。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	輸血用血液製剤のHBV、HCV、HIVについて、2000年2月から2004年1月までの4年間の遡及調査を行った。遡及調査は、主に複数回献血者において感染症マーカーが陽転した場合に前回の血液サンプルを個別NATで精査するもので、HBVについては50プールのNAT、HBsAg、HBcAbのいずれかの陽転例約16000人について前回の保管検体を調べた。副作用報告による感染例をあわせると、日本では輸血によるHBV感染が1年に約19例、HCV感染は4年に1例、HIV感染は2年に1例起こるものと推定された。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	医療機関において輸血後感染症の全数調査を実施したところ、輸血後陽転例はHBVで9例(0.9%)存在し、1例のみが輸血後B型肝炎と診断され、他の8例は感染晩期のHBVキャリアで再活性化が起こったと考えられた。HCVとHIVでは輸血後陽転例はみられなかった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	日本の献血者におけるHBV NAT陽性者について解析したところ、20歳代ではHBV感染初期、50歳代、60歳代では感染晩期の陽性例が多かった。陽性数の高い地域は千葉県から愛知県までの太平洋側と大阪府であった。HBV Genotype Aは101例(女性1例)検出され、全国に広がる傾向が見られた。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	2005年に全国の医療機関から日本赤十字社へ報告された輸血感染症(疑い症例を含む)の現況とその傾向についての報告である。2005年輸血感染症症例(疑い症例を含む)報告数は12月22日現在260例で、内訳は、HBV: 127、HCV: 71、HEV: 2、HIV: 2、CMV: 3、ヒトパルボウイルスB19: 3、細菌: 52であった。この内、輸血との因果関係が高いと評価した症例は、HBV: 10例、HCV: 1例、HEV: 1例、ヒトパルボウイルスB19: 3例であった。
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	スペインの肝臓及び消化器専門クリニック施設における急性C型肝炎の全報告例についてレトロスペクティブ疫学解析を行った。1998年から2005年の急性C型肝炎患者103例を対象とした。大部分の症例で感染に関連する唯一の立証されたリスクファクターは入院であった。
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本へヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃導入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂食の大衆化と関連する。
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血しょう検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンブロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生的分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
252	2006/10/25	60634	日本赤十字社	新鮮凍結人血漿	新鮮凍結人血漿	人血液	日本	有効成分	有	有	無	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	60632に同じ
												マラリア	CDC 2006年6月30日	60632に同じ
												マラリア	ProMED-mail20060624.1758	60632に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60632に同じ
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	60632に同じ
												バルボウィルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	60632に同じ



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sundayherald.com/54442</a>	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006 年5月2日	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月 21日	60632に同じ
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874- 1881	60632に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	60632に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60632に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60632に同じ
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	60632に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	60632に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60632に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	60632に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	60632に同じ
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	60632に同じ
253	2006/10/25	60635	日本赤十字社	pH4処理酸性人免疫グロブリン	pH4処理酸性人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60633に同じ
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	60633に同じ
												バルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	The Guardian 2006 年5月2日	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	AABB Weekly Report 2006年7月 21日	60633に同じ
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874- 1881	60633に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	60633に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60633に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60633に同じ
												リンパ性脈絡髄 膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	60633に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60633に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	60633に同じ
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	60633に同じ
254	2006/10/25	60636	日本赤十字社	人免疫グロブリン	人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60633に同じ
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	60633に同じ
												パルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sundayherald.com/54442</a>	60633に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	The Guardian 2006 年5月2日	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	AABB Weekly Report 2006年7月 21日	60633に同じ
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874- 1881	60633に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	60633に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60633に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60633に同じ
												リンパ性脈絡髄 膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	60633に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60633に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	60633に同じ
												B型肝炎C型 肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型 肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型 肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型 肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	60633に同じ
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	60633に同じ



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	60633 と同じ
255	2006/10/25	60637	日本赤十字社	人血小板濃厚液	人血小板濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	60632 と同じ
												マラリア	CDC 2006年6月30日	60632 と同じ
												マラリア	ProMED-mail20060624.1758	60632 と同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60632 と同じ
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	60632 と同じ
												バルボウィルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	60632 と同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	60632 と同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	60632 と同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 874	60632に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sunday herald.com/54442</a>	60632に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	60632に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	The Guardian 2006 年5月2日	60632に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60632に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60632に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	AABB Weekly Report 2006年7月 21日	60632に同じ
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874- 1881	60632に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	60632に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60632に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60632に同じ
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	60632に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	60632に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60632に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	60632に同じ
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	60632に同じ
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	60632に同じ
256	2006/10/25	60638	日本赤十字社	白血球除去人赤血球浮遊液	白血球除去人赤血球浮遊液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	60632に同じ
												マラリア	CDC 2006年6月30日	60632に同じ
												マラリア	ProMED-mail20060624.1758	60632に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60632に同じ
												ムンブス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	60632に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												バルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sundayherald.com/54442</a>	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60632に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60632に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	AABB Weekly Report 2006年7月 21日	60632に同じ
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874- 1881	60632に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	60632に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60632に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60632に同じ
												リンパ性脈絡髄 膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	60632に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	60632に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60632に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	60632に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60632に同じ
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	60632に同じ
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	60632に同じ
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	60632に同じ
257	2006/10/25	60639	日本赤十字社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	60633に同じ
												パルボウィルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 311: 1117	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 874	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sundayherald.com/54442</a>	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	60633に同じ



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	The Guardian 2006 年5月2日	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60633に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	AABB Weekly Report 2006年7月 21日	60633に同じ
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874- 1881	60633に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	60633に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60633に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60633に同じ
												リンパ性脈絡髄 膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	60633に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60633に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	60633に同じ
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	60633に同じ
258	2006/10/26	60640	沢井製薬	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
259	2006/10/26	60641	日本製薬	乾燥抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	E型肝炎	日本赤十字社 <a href="http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf">http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf</a>	北海道赤十字血液センターで献血者のHEV保有状況を調べた。平成16年11月1日から平成17年10月31日にブタ、シカ等の生肉、生レバーの喫食歴のある献血者は298,790人中802人(0.28%)で、その血液検体からHEV-RNAが1例検出された。平成17年11月1日から12月31日に生肉、レバー等の喫食歴のある献血者は49,361人中13,835人(28.0%)で、HEV-RNAが5例検出された。
												異型クローン フェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 <a href="http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html">http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html</a>	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
260	2006/10/26	60642	日本製薬	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	人血液	米国	有効成分	有	無	無	E型肝炎	日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf	60641に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html	60641に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60641に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60641に同じ
261	2006/10/27	60643	バイエル薬品	pH4処理酸性人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国	有効成分	有	有	無	感染	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 3-7	1992年以来、米国の医学研究所(IOM)は、「新興感染症は、新型の、または再興する、または薬剤耐性の感染症であり、ヒトでの発生率が過去20年で増加しているか、近い将来増加するおそれがある疾患」と定義している。現在、トリインフルエンザ、ウエストナイルウイルス、重症急性呼吸器症候群(SARS)コロナウイルスの3つが注目されている。供血中の感染物質の存在は、血友病患者の治療に使われる血液や血液由来製品の安全性に重大な影響を与える。病原体の検出と除去が重要である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 8-15	vCJDは食物でBSEに暴露することで発生するとされていたが、輸血や血液製剤によっても伝播することが報告された。今までのヒトでの発症例は全てヒトプリオン遺伝子のコドン129がメチオニンホモ型のヒトであり、感染していても発症しない無症候性キャリアがいるおそれがある。非侵襲性の血液検査の開発が急務である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 16-20	vCJDが英国の血友病患者の臨床に与えた影響について述べた。2003年に輸血伝播vCJDによる最初の死亡例が報告され、2004年に輸血伝播vCJDのリスクがある全ての患者に通知することが決定された。2005年4月現在、A型およびB型血友病患者は全員、遺伝子組換え凝固因子を投与されている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 26-28	血友病の管理における新興病原体についての討論。英国ではvCJDが特に大きな脅威であるが、白血球除去により完全に伝播を防ぐことはできない。また遺伝子組換え製剤による治療が、全てのウイルス伝播リスクをなくすわけではないことなどが論じられている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型(MM、MV、VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMIは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
												C型肝炎	Transfusion 2006; 46: 469-475	米国の5つの血液センターで1999年から2001年12月に供血した2,579,290例についてHCV抗体、NATデータ、ALT値および人口統計学的特徴について分析した。ALT値はRNA陽性の初回ドナーで有意に高い傾向があった。ウイルス血症寛解は白人の方がアジア系や黒人より有意に高かった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2006; 46: 652-658	血漿分画時にTSE物質を除去する研究のために、スクレイビーに感染した脳から水溶性の感染性検体を調整した。263Kスクレイビー感染ハムスターの脳を10%PBS中に懸濁し、低速遠心分離後、更にも上澄みを超遠心(220000xg)した。得られた上澄みは感染性を有し、しかもPrPTSEの凝集体を全くまたはごくわずしか含有しなかった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												バルボウイルス	J Clin Virol 2006; 35: 407-413	血液プール中の感染性バルボウイルスB19を自動的に高速に検出するための方法を開発した。B19蛋白合成は免疫蛍光染色で検出され、ウイルスDNA合成はdot blot hybridizationと定量的PCRで検出された。調べられた細胞株の中ではUT7/Epo-S1がB19感染に最も感受性が高かった。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
												鳥インフルエンザ	ECDC Technical Report 2006年6月1日	ヨーロッパで発生している高病原性トリインフルエンザウイルス、特にA型H5N1による公衆衛生学的リスクについて論じている。ヒトの健康へのリスクとしては、トリウイルスによる直接感染、ならびに新しいA型インフルエンザ株の発生がある。感染予防のためには家禽および野鳥の調査、獣医と医療との連携、適切な情報の提供などが必要である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Foreに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイパーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	全血輸血により、サルフォamyウイルス(SFV)感染が起こるかをアカゲザルを用いて調べた。自然感染ザル2匹の全血を、各々、レトロウイルスを持たないサル2匹に輸血したところ、1匹のドナーからのレシピエントでは感染し、もう1匹のドナーからのレシピエントは感染しなかった。ヒトでのSFV輸血伝播の可能性が示された。
262	2006/10/27	60644	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ隣臓	米国	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコードン129遺伝子型(MM, MV, VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
												BSE	USDA Statement 2006年5月2日	米国農務省はアラバマ州で発生したBSE陽性牛に関する疫学的調査結果について声明を出した。感染牛は安楽死処分され、検体採取後に焼却処分された。農務省動植物衛生検査部(APHIS)プロトコールに従って、家畜やヒトの食物連鎖からは除外された。当局の調査によれば、問題のウシは10歳令以上でFDAによる1997年の飼料規制令施行前に生まれていた。
												BSE	Centers for Epidemiology and Animal Health National Surveillance Unit 2006年4月27日	米国でのBSE感染率を推定するため、2006年3月17日までの7年間に集められたサーベイランスデータ(735213例)を用いて、統計的分析を行った。BSurvEモデル法およびBayesian Birth Cohortモデル法で分析した結果、米国における感染牛の数は極めて低いことが示唆された。
												BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	北アメリカにおけるBSEの最新情報(2006年8月24日現在)。カナダ食品検査局調査官は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月齢の乳牛に関する疫学的調査を終了した。問題の牛のどの部分も、ヒトおよび動物の食物システムには含まれていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイパーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
263	2006/10/27	60645	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	感染	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 3-7	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 8-15	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 16-20	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 26-28	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60643に同じ
												C型肝炎	Transfusion 2006; 46: 469-475	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2006; 46: 652-658	60643に同じ
												バルボウイルス	J Clin Virol 2006; 35: 407-413	60643に同じ



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60643に同じ
												鳥インフルエンザ	ECDC Technical Report 2006年6月1日	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60643に同じ
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	60643に同じ
264	2006/10/27	60646	バイエル薬品	①人血清アルブミン ②オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	①有効成分 ②製造工程	有	有	無	感染	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 3-7	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 8-15	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 16-20	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 26-28	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60643に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												C型肝炎	Transfusion 2006; 46: 469-475	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2006; 46: 652-658	60643に同じ
												バルボウイルス	J Clin Virol 2006; 35: 407-413	60643に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60643に同じ
												鳥インフルエンザ	ECDC Technical Report 2006年6月1日	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60643に同じ
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	60643に同じ
265	2006/10/27	60647	バイエル薬品	①加熱人血漿たん白 ②オクトグ アルファ(遺伝子組換え)	加熱人血漿たん白	ヒト血液	米国	①有効成分 ②製造工程	有	無	無	感染	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 3-7	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 8-15	60643に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 16-20	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 26-28	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60643に同じ
												C型肝炎	Transfusion 2006; 46: 469-475	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2006; 46: 652-658	60643に同じ
												バルボウィルス	J Clin Virol 2006; 35: 407-413	60643に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60643に同じ
												鳥インフルエンザ	ECDC Technical Report 2006年6月1日	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60643に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	60643に同じ
266	2006/10/27	60648	日本メジ フィジック ス	人血清アルブミンジエチレントリアミン五 酢酸テクネチウム(99mTc)	人血清アル ブミンジエチ レントリアミ ン五酢酸テ クネチウム (99mTc)	生物学的製 剤基準人血 清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			
267	2006/10/27	60649	大日本住 友製薬	インターフェロン アルファ(NAMALWA)	加熱人血漿 たん白	人血液	米国	添加物	無	無	無			
268	2006/10/27	60650	大日本住 友製薬	インターフェロン アルファ(NAMALWA)	ヒトリンパ芽 球細胞樹立 株ナマルバ 細胞	ヒト細胞		製造工程	無	無	無			
269	2006/10/27	60651	大日本住 友製薬	インターフェロン アルファ(NAMALWA)	ウシ乳由来 成分	ウシ乳	ニュージ ーランド又は オーストラリ ア	製造工程	無	無	無			
270	2006/10/27	60652	大日本住 友製薬	インターフェロン アルファ(NAMALWA)	ウシ血清由 来成分	ウシ血液	ニュージ ーランド又は オーストラリ ア	製造工程	無	無	無			
271	2006/10/27	60653	大日本住 友製薬	インターフェロン アルファ(NAMALWA)	ヒツジ血清 由来成分	ヒツジ血液	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
272	2006/10/27	60654	大日本住 友製薬	インターフェロン アルファ(NAMALWA)	鶏卵由来成 分	鶏卵		製造工程	無	無	無			
273	2006/10/27	60655	ZLBペ ーリング		ウマコラーゲ ン	ウマアキレス 腱	フランス、ド イツ、ベル ギー、イタリ ア	支持体	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
274	2006/10/27	60656	ZLBベ リング		ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	無	無	無			
275	2006/10/27	60657	ZLBベ リング		アプロチニン	ウシ肺	ウルグア イ、ニュー ジーランド	有効成分	無	無	無			
276	2006/10/27	60658	ZLBベ リング		トロンボプ ラスチン	ウサギ脳	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
277	2006/10/27	60659	ZLBベ リング		トロンピン画 分	ウシ血液	ニュージ ーランド	有効成分	無	無	無			
278	2006/10/27	60660	ZLBベ リング		ヒトフィブリ ノゲン	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	海洋起源のVesivirus感染がヒトでどの程度広がっているかを調べた。供血基準をクリアした供血者群、ALT値が高いため供血不可であった供血者群、非A-G肝炎患者群、および輸血または透析に関連した肝炎患者群由来の血清をVesivirusに対する抗体ならびにゲノムについて検査した。Vesivirusビリオンに対する血清陽性は、各々、12%、21%、29%、47%であった。RT-PCRの結果、SMSV Vesivirusなどとの関連性が示された。感染がヒトに広くみられることが明らかになった。
279	2006/10/27	60661	ZLBベ リング		アンチトロン ピンⅢ	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60660に同じ
280	2006/10/27	60662	ZLBベ リング		ヒトアルブミ ン	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	添加物	有	無	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60660に同じ
281	2006/10/31	60663	セローノ ・ジャ パン	ソマトロピン(遺伝子組換え)	トリブシン	ブタ膵臓	英国、米 国、カナダ 、デンマー ク	製造工程	無	無	無			
282	2006/10/31	60664	セローノ ・ジャ パン	ソマトロピン(遺伝子組換え)	C127細胞株 (マウス細 胞)	マウス細胞	不明	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
283	2006/10/31	60665	セローノ・ジャパン	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血液	マスターセルバンク(不明) ワーキングセルバンク(米国)	製造工程	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(15) 2006年4月13日	米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 29(最終報告): 今回報告終了日-2006年4月4日。水疱性口内炎の2005年の家畜伝染病は終了したと考えられる。米国における水疱性口内炎の発生は季節的で、地理および気候などによって大きく左右される。これらの要因は将来的な発生を決定すると思われる。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(34) 2006年8月24日	米国における水疱性口内炎: 報告日-2006年8月18日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、アウトブレイクの詳細-Wyoming州、Natrona郡の農場における1件(アウトブレイクの開始日2006年8月13日): ウマにおいて疑い例30例、症例1例、ウシにおいて疑い例25例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(37) 2006年9月14日	米国における水疱性口内炎Follow-up report No.3: 今回報告終了日-2006年9月11日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、最後のfollow-up report報告以降、新規アウトブレイクは報告されていない。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(38) 2006年9月21日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.4: 今回報告終了日-2006年9月19日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新規アウトブレイク-Wyoming州、Converse郡などの農場における3件(アウトブレイクの開始日2006年8月30日~2006年9月6日): ウマにおいて疑い例8例、症例3例、ウシにおいて疑い例400例、症例5例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(39) 2006年9月28日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.5: 今回報告終了日-2006年9月26日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新規アウトブレイク-Wyoming州、Converse郡の農場(アウトブレイクの開始日2006年9月10日): ウシにおいて疑い例60例、症例1例。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060615.1665	米国ミネソタ州Kittson郡のウシの群で、2006年6月10日～11に、雌ウシ5頭および雄ウシ1頭が死亡しているのが発見された。血液サンプルが収集され、炭疽に陽性であったことが確定した。2006年6月15日現在、合計6例が死亡した。
												炭疽	ProMED-mail20060626.1775	米国North Dakota州Emmons郡においてウシ2例が炭疽で死亡した。同州において2006年で初の症例である。
												炭疽	ProMED-mail20060707.1868	米国Minnesota州で、2006年6月中旬にMinnesota Board of Animal Healthが2施設での炭疽による死亡を初めて報告してから、新たに9施設において家畜の死因として炭疽が確認された。この9施設で動物24例が死亡し、計31例の死亡となった。7施設はKittson郡にあり、ウマおよびバッドファローにおいて炭疽が確認された。残り2施設はWoods郡であり、Woods郡のLakeの家畜において初めて記録された炭疽による死亡である。
												炭疽	ProMED-mail20060726.2057	米国Texas州で、Val Verde郡のシカ、およびCrockett郡のウシにおいて炭疽が確定された。
												炭疽	ProMED-mail20060724.2044	米国South Dakota州の家畜に再び炭疽が発生している。Hyde郡のワクチン接種を受けていないウシの集団(最初に死亡した5例を含む約100例)における炭疽が報告され、2006年7月24日に州獣医診断研究所は診断を確定した。
												炭疽	ProMED-mail20060721.2010	米国Minnesota州は87年間で最悪の家畜の炭疽のアウトブレイクに取り組んでいる。2006年6月中旬から、Minnesota州北西部の23の農場において、家畜68頭が死亡した。死亡した家畜の多くはウシであったが、バイソン5例およびウマ6例も死亡した。この最近のアウトブレイクはKittson, Roseau, Red LakeおよびLake of the Woods郡に限定されている。カナダも炭疽のアウトブレイクを報告している。
												炭疽	ProMED-mail20060817.2300	米国South Dakota州のウシの群において、2006年で2例目の炭疽症例が確認されたLincoln郡において最近炭疽が発見され、ワクチン未接種の51頭のウシの群の3頭が死亡した。2005年に500例を超えるウシ、バイソン、シカがSouth Dakotaで炭疽により死亡した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060811.2256	米国Minnesota州で、炭疽による死亡が確認された施設がさらに2つ追加された。これらはMarshall郡およびPolk郡にある。炭疽が原因の死亡の最新報告は2006年7月25日の肉牛における炭疽である。
												炭疽	ProMED-mail20060921.2699	米国Texas州で、2006年9月18日に、Texas Department of Health Servicesは獣医公衆衛生担当官らに、Texas Veterinary Medical Diagnostic Laboratory (TVMFL)によりKinney郡の4才のウシで炭疽の診断が確定されたことについて注意喚起を行った。
												炭疽	ProMED-mail20060706.1858	Canadian Food Inspection Agency (CFIA)は、最近10日間で炭疽が疑われるウシの死亡76頭を報告した。検査で3例が陽性症例と確定された。洪水で土壌の細菌に暴露したことが炭疽のアウトブレイクの原因と考えられる。
												炭疽	ProMED-mail20060726.2059	カナダChaplin地域の農場においてウシ3例が炭疽で死亡しているとCanadian Food Inspection Agencyが2006年7月21日に述べた。この夏、炭疽はSaskatchewanで既に発生しており、7月21日現在50の農場で216頭の動物が死亡している。
												炭疽	ProMED-mail20060912.2581	カナダSaskatchewanで動物の炭疽による死亡は779頭に達した(先週53頭が死亡)。先週5つの牧場施設における感染が新たに報告された。
												炭疽	ProMED-mail20060916.2635	カナダSaskatchewanにおいて153施設で炭疽が確認された。これら施設における動物(ウシ、ウマ、ブタ、ヒツジ、バイソン、シカ、ヤギ)の死亡は783件である。Manitobaにおいては変更ない。
												BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年4月13日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はBritish ColumbiaのBSE疑いウシの確認検査を実施していることを公表した。このウシはカナダ国内BSEサーベイランスプログラムによりFraser Valley農場で確認された。州による初期スクリーニング検査後、更なる分析のためにWinnipegのForeign Animal Diseaseの国立センターに送付された。4月16日、最終的な検査の結果、このウシがBSEであることが確定したと発表した。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日	2006年4月16日、カナダWinnipegのForeign Animal Diseaseの国立センターは最終的な検査の結果、British ColumbiaのBSE疑いウシ(6才の乳牛)がBSEであることを確定した。感染源について調査中である。
												BSE	ProMED-mail20060617.1680	Canadian Food Inspection Agencyは、2006年4月16日に確認されたBritish Columbia州のウシにおけるBSE症例についての調査を終了した。特定の感染源は発見されていないが、調査員らは、種々の原料を運んだり、受け取った乗り物および道具がBSEの病原因子によりウシの飼料を汚染した可能性があるとして決定した。この症例とカナダにおける4例目のBSEの動物への飼料の原料供給業者が共通していることも確認された。
												BSE	ProMED-mail20060706.1855	カナダManitobaの食用の成牛1例において最終検査結果によりBSEが確定され、Canadian Food Inspection Agencyは包括的な調査を実施している。
												BSE	ProMED-mail20060714.1937	カナダAlberta州の50月令の乳牛がBSEであることが確定された(カナダで7例目)。このウシは7月10日に予備検査に基づいて初めて報告された。このウシは焼却処分され、ヒトまたは動物の食物連鎖に含まれていない。
												BSE	ProMED-mail20060825.2413	Canadian Food Inspection Agency(CFIA)は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月令の乳牛に関する疫学的調査の結論を出した。このウシの死骸はヒトまたは動物の食物(飼料)系に入っていない。禁止された物質によりウシの飼料1バッチが汚染された可能性のある事例が1軒の飼料販売店で記録されており、このバッチの飼料全てがBSE陽性のウシの農場へ送られた。この飼料が最も可能性の高い感染源である。
												BSE	ProMED-mail20060823.2384	2006年8月23日、カナダで、Alberta州の肉用の雌牛がBSEであることがCanadian Food Inspection Agency(CFIA)により確定された。オーナーなどにより提供された予備情報によると、この動物の年齢は8から10才であり、飼料に関する禁止令導入前または実施早期にBSE因子に暴露した可能性がある。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
284	2006/10/31	60666	セローノ・ジャパン	下垂体性性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	有	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(15) 2006年4月13日	60665に同じ
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(34) 2006年8月24日	60665に同じ
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(37) 2006年9月14日	60665に同じ
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(38) 2006年9月21日	60665に同じ
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(39) 2006年9月28日	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060615.1665	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060626.1775	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060707.1868	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060726.2057	60665に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060724.2044	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060721.2010	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060817.2300	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060811.2256	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060921.2699	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060706.1858	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060726.2059	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060912.2581	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060916.2635	60665に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年4月13日	60665に同じ
												BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日	60665に同じ
												BSE	ProMED-mail20060617.1680	60665に同じ
												BSE	ProMED-mail20060706.1855	60665に同じ
												BSE	ProMED-mail20060714.1937	60665に同じ
												BSE	ProMED-mail20060825.2413	60665に同じ
												BSE	ProMED-mail20060823.2384	60665に同じ
285	2006/10/31	60667	セローノ・ジャパン	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	有	鳥インフルエンザ	ProMED20060412-0070	中国南部在住の41才女性が、肺炎様症状で発病したため、H5N1型トリインフルエンザウイルス感染であるか検査されていると、WHO当局が4月11日に発表した。患者は、2006年3月30日にWHO北京事務所に報告された。広東省の州都広州にある市場で野菜を販売していたこの女性は、咳嗽、発熱および頭痛を発症して入院した。女性は、生きた家禽が販売されていた場所近くで働いていた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月19日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update9): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における17例目の症例を報告した。症例は、Hubei省Wuhan市の21才の出稼ぎ労働者男性で、2006年4月1日に発症し、重体で現在入院中である。男性の暴露源は調査中である。2005年11月以来、Hubei省において家禽のアウトブレイクは報告されていない。男性の密接な接触者は医学的観察下におかれている。現在のところ中国はH5N1感染症症例17例を報告しており、そのうち11例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月21日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update10): 中国衛生省は同国における12例目の死亡症例を通知した。死亡症例は以前に報告された症例で、Hubei省の21才男性である。症例は2006年4月19日に重症呼吸器疾患で死亡した。中国における検査確定症例17例のうち、12例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月27日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update11): 中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国で18例目のヒト感染症例を報告した。症例は南西部Sichuans省の8才の女児で、2006年4月16日に発熱および肺炎を発症し、入院したままである。衛生省によれば、初期調査により家禽の死亡が症例の自宅近くで最近発生したことが確認された。中国における検査確定症例18例のうち、12例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年6月16日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update12): 中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国19例目のヒト感染症例を確認した。患者はGuangdong省Shenzhen市の31才の男性で、6月3日に発症した。感染源についての調査が実施されており、予備的報告では、症例は発症前に、生きた家禽が売られている地域の市場を訪れたことが示された。この地域では家禽におけるH5N1感染は公式に報告されていない。現在までに報告された中国における検査確認された19例のうち、12例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060713.1934	中国のGuangdong省における最も最近のトリインフルエンザのヒト症例は回復の徴候を示している。この症例との密接な接触者98例において、疑われる症状(肺炎またはトリインフルエンザ様症状)は確認されていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060804.2158	中国のGuangdong省における、最近のトリインフルエンザ患者 (Shenzhenの31オトラック運転手)が2006年8月2日に退院したと地元保健当局が発表した。この患者は中国で回復したトリインフルエンザ患者の中で、最も重症であった。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060622.1729	2003年11月(中国がWHOにヒト感染について報告した2年前)に中国本土でトリインフルエンザにより男性が死亡したことを、Beijingの科学者らが2006年6月22日に発行予定の医学雑誌(New England Journal of Medicine)で述べた。男性の死亡は当初SARSが原因であると考えられた。このことは、SARSによると考えられた他の症例も実際にはH5N1トリインフルエンザによる死亡だった可能性を示唆する。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060629.1800	中国衛生省は、2003年11月にH5N1トリインフルエンザで死亡した男性症例に関する報告(N Engl J Med 2006; 354: 2731-2732)について独自の調査を実施している。この報告は8名の中国の研究者によるもので、当局は同誌に発表されるまでこの症例を知らなかったと言っている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年8月8日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update13): 2006年8月8日に中国衛生省は、2003年11月に遼いH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例をレトロスペクティブに確認した。症例はBeijingを拠点とする軍人の24才男性で、2003年11月25日に発症し、重症呼吸器疾患で12月3日に死亡した。本症例の確認により、中国本土における最初のH5N1ヒト感染事例が明らかとなり、現在のアウトブレイクにおいて最初に確認された症例となる。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060812.2261	中国衛生当局は連絡の問題により、H5N1トリインフルエンザのヒトにおける初めての症例の報告に2.5年の遅延があったことを2006年8月10日に発表した。Beijingの24才の軍人が2003年後期にトリインフルエンザに感染していた。中国はこの症例を中国の研究者らがNew England Journal of Medicineにおいてレターを発表した後に初めて確認した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年8月14日	中国におけるトリインフルエンザの状況 (update14) : 中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国で21例目のヒト感染症例を確認した。症例はXinjiang Uygur自治区の62才男性で、2006年6月19日に発症し、7月12日に死亡した。症例の検体に関する初期検査は陰性であった。7月および8月に検査を繰り返し行ったところ、最終的に陽性結果であったことが、2006年8月14日に衛生省により確認された。症例の疫学的調査により死亡または病気のトリへの暴露歴を明らかにすることはできなかった。
												デング熱	ProMED20060416-0010	香港で、25才男性のデング輸入例が確認された。この患者はタイから帰国後2006年3月29日に発病し、6日後に入院した。この患者は回復しすずに退院した。この患者は2006年での8人目の輸入デング熱患者である。この患者の25才女性の同行者は、昨日デング感染が確認された。
												デング熱	ProMED20060422-0090	香港で、健康予防センター(Centre for Health Protection)は、25才の女性のデング患者を確認した。これにより年間累計患者数は9人になった。全例とも輸入例である。この患者は、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛の症状で4月7日に来院した。この患者は1月28日から4月7日までインドネシアを旅行していた。
												デング熱	ProMED-mail20060608.1593	香港で健康予防センター(Centre for Health Protection)は2006年6月1日にデング熱の輸入症例(36才、男性)を確認した。患者はマレーシア在住である。2006年で12例目の輸入症例である。
												デング熱	ProMED-mail20060604.1553	台湾の環境保護局はデング熱のアウトブレイクに対して予防措置をとるよう呼びかけた。蚊が発生する場所をなくすことが唯一の予防策であると言っている。
												デング熱	ProMED-mail20060719.1989	台湾Kaohsiungで2006年7月6日に初めての固有のデング症例が発見された。続いて更に6例が発見され、合計7例となった。デング蚊指数は常に高く、検査された地域の約92%で警戒レベルである。
												デング熱	ProMED-mail20060730.2110	台湾の疾病管理センターは南部でデング熱の脅威が増加するおそれがあると2006年7月25日に発表した。今年のデング熱症例は59例であるが、そのうち17例が国内で感染しており、17例中15例がKaohsiung Cityで報告されている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	ProMED-mail20060806.2196	Kaosiungにおけるデング熱のアウトブレイクの悪化は継続していること、2006年7月6日にKaosiungのQienzeng地区でデング熱症例が報告されて以降、デング熱の発生は悪化している。これまでに報告された症例は28例で、同地区で25例、Qianjin地区で3例である。
												デング熱	ProMED-mail20060901.2486	香港でMa On Shanの62才の男性がデング熱を確認された。2006年7月1日から28日まで中国本土へ旅行し、2006年8月1日に発熱し、現在は回復している。本年の症例数は22例で、全て輸入症例である。
												デング熱	ProMED-mail20060911.2577	2006年9月4日現在、中国Guangdong省で、先週、デング熱症例数が倍以上の219例となり、半数がまだ入院中である。中国の専門家らは最近の高温多湿の天候や、蚊に対する取り組みが不十分であることがアウトブレイクの原因であるとしている。台湾では第35週(2006年8月27日～9月2日)に、デング熱症例90例が報告され、31例は検査で確認された。9月2日現在、今年の報告症例数は721例で、そのうち202例が確認された。死亡例は報告されていない。
												ハンタウイルス	ProMED20060513-0010	2006年3月、台湾CDC(疾病管理センター)は、検査室で確認されたハンタ腎症候性出血熱(HFRS)の患者3人の集団発生の報告を受けた。3人の患者は同室者で、海軍に従軍して、2006年1月24日から軍艦に滞在していた。ELISA法にて、ハンタウイルスIgMおよびIgG抗体とも陽性で、IFA法によって、Seoul亜型であることが判明した。軍艦と寮施設の13匹の齧歯類のうち、6匹が(ハンタウイルス)検査陽性であった。新たな疑い例の発生があり、5月3日から軍人全員が軍艦から退去した。
												ウイルス感染	ProMED20060414-0010	中国北部の高校で、学生1名が未確認のウイルス性疾患により死亡し、数十名が高熱で入院したため、学校が閉鎖されると4月12日国営メディアが報じた。医療当局は陝西省での流行がトリインフルエンザではないとす一方で、ウイルスの特定に努力を続けている。この疾患は、3月末にチーシャン郡(Qishan county)の19才の学生が高熱を発したことで明らかとなった。現在のところ、トリインフルエンザや新型肺炎の可能性は除外されたが、この疾患の感染性は強まっており、正確な原因と感染経路は特定されていない。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染	ProMED-mail20060621.1712	2006年6月12日以降、中国Shaanxi省Mizhi郡において生徒および教師60名が熱性疾患を発症している。大部分の生徒は高温および乾燥した空気が原因の呼吸器感染症を発症したと考えられ、より少数の生徒は流行性耳下腺炎および百熱咳を患っている。病原体の特定はまだされていない。
												インフルエンザ	ProMED-mail20060624.1757	中国で、2006年6月11日～22日に、Guangzhou大学の130名を超える学生および職員がインフルエンザ(インフルエンザ型疾患)に感染した。同様の症例は同市の他の学校においても発生している。主な症状は発熱で、重症にはならない。
												感染	ProMED-mail20060828.2449	中国南西のYunnan省のLuliang郡Xincun村で、住民39例が重度の疼痛に苦しみ、2006年8月22日までに1例が死亡し、3例が入院した。最初の調査結果により腸チフスが示唆された。
												日本脳炎	ProMED-mail20060827.2441	中国Shanxi省Yuncheng市で日本脳炎のアウトブレイクによる死亡の合計は19例に増加し、感染者は38例であると地域保健当局が2006年8月12日に述べた。Henan省ではさらに14例が日本脳炎で死亡し、既に報告された26例の死亡に追加された。2006年7月以降、437例が感染したとHenan省保健当局は述べた。
												日本脳炎	ProMED-mail20060909.2565	台湾の届出伝染病サーベイランスシステムに基づき、2006年8月27日～2006年9月2日に日本脳炎が台湾で7例報告された。2006年9月2日時点で、2006年に台湾全域で188例報告され、このうち20例が確認された。1例はベトナムからの輸入症例、19例は地域症例である。
286	2006/10/31	60668	大洋薬品工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	People's Daily Online 2006年4月18日、5月24日	2006年4月18日付けの情報によると、ベトナムLam Dong省で2550頭のブタとウシが口蹄疫に感染した。Duc Trong地区では2250頭が感染し、そのうち800頭以上が死亡した。5月24日付けの情報によると、感染はさらに36の市や省に拡大した。17100頭近くのウシと水牛、ならびに約18400頭のブタが感染した。
												炭疽	ProMED-mail20060720.1993 ProMED-mail20060912.2581	カナダSaskatchewan州で家畜の炭疽感染が拡大している。2006年7月18日現在、47施設が隔離されている。ウシ148頭、ウマ6頭、ブタ1頭などが死亡した。9月12日現在、153施設が隔離されている。ウシ475頭、ウマ6頭、ブタ1頭などが死亡した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
287	2006/10/31	60669	大洋薬品工業	ダルテバリンナトリウム	ダルテバリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	People's Daily Online 2006年4月18日、5月24日	60668に同じ
												口蹄疫	ベトナム文化情報省2006年9月1日	ベトナムのハノイのSoc Son地区ではウシ75頭、ブタ39頭が口蹄疫に感染した。Thanh Tri地区では155頭が感染した。口蹄疫の流行はベトナムの12の地方に発生し、3300頭以上のウシ、1100頭のブタが感染した。
												炭疽	ProMED-mail20060720.1993 ProMED-mail20060912.2581	60668に同じ
288	2006/10/31	60670	大洋薬品工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	People's Daily Online 2006年4月18日、5月24日	60668に同じ
												口蹄疫	ベトナム文化情報省2006年9月1日	60669に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060720.1993 ProMED-mail20060912.2581	60668に同じ
289	2006/10/31	60671	大洋薬品工業	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ	中国	有効成分	有	無	無	野兔病	ProMED-mail20060601.1531	米国Texas州Rick Husband国際空港の東側で1羽のジャックラビットの死骸が回収された。現地付近では20羽以上の野兔が死んでいた。死骸はCDC細菌性動物寄生体症局へ送られ、蛍光抗体試験の結果、野兔病に陽性であった。コヨーテの死骸のダニも野兔病に陽性であった。殺虫剤の散布などヒトへの感染防止対策が採られている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
290	2006/10/31	60672	バクスター	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
291	2006/11/01	60673	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止により記載なし	製造工程	無	無	無			
292	2006/11/01	60674	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血清	製造中止により記載なし	製造工程	無	無	無			
293	2006/11/01	60675	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	DNase I	ウシの脾臓	製造中止により記載なし	製造工程	無	無	無			
294	2006/11/01	60676	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	RNase A	ウシの脾臓	製造中止により記載なし	製造工程	無	無	無			
295	2006/11/01	60677	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	トリブシン	ブタの脾臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2006; 80(S): 297 第80回日本感染症学会総会学術講演会	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。串焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。
												E型肝炎	日本輸血学会雑誌/第54回日本輸血学会総会 2006; 52(2): 231	北海道地区において試験的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
296	2006/11/01	60678	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	GL37細胞	アフリカミドリザルの腎細胞由来	製造中止により記載無	製造工程	有	無	無	結核	結核 2006; 81(3): 310 第81回日本結核学会総会	20代男性が、職場のサルが集団で結核を発症した後、しばらくしてから肺結核と診断され、RFLP分析の結果、サルからの分離菌と同一菌株であることが判明した。結核は人畜共通感染症になりうる。
												人畜共通感染症	第75回日本寄生虫学会大会 2006年5月19-20日	ネパールのカトマンズの小児病院で分離されたプラストシスチス株中に珍しい遺伝子型が検出され、それと同じ遺伝子型が現地の寺院に生息するアカゲザルから分離したプラストシスチス株に高率に見出された。このことから、当地におけるプラストシスチス感染の一部は、アカゲザル由来株がヒトへ感染伝播した可能性が高い。
297	2006/11/02	60679	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	HBs抗原たん白質(huGK-14細胞由来)	ヒトの肝臓	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	PLoS Med 2006; 3:e263	インド洋諸島でのアウトブレイクを引き起こしているチクングンヤウイルスについて、127名の患者由来の6つのウイルス単離体の遺伝子配列ならびに糖蛋白質E1の部分的配列を調べた。その結果、アウトブレイクは東アフリカ単離体に関連のある株で始まったことが明らかとなった。アウトブレイク単離体の非構造蛋白では10個のアミノ酸変異が見られた。構造蛋白部分では膜融合糖蛋白E1に2つの注目すべきアミノ酸変異が見られた。E1蛋白のA226V変異は最初の株では見られなかったが、レユニオンからのウイルスの90%以上で見られた。
												赤痢	IASR 速報 pr3206	2006年8月中旬に中国に3日間出張し、帰国3日後より発熱、腹痛、粘血便を伴う下痢が出現した37歳男性は、便よりShigella sonneiが検出され、細菌性赤痢と診断された。5日間のFOM継続投与により症状軽快し、除菌確認後、第11病日に退院となった。分離菌はペニシリナーゼ産生、セファロスポリナーゼ非産生で、CTX-M型で、ESBL(extended-spectrum $\beta$ -lactamase)産生性が示唆された。
298	2006/11/02	60680	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウシ胎児血清	ウシの血液	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
299	2006/11/02	60681	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウシ血清アルブミン	ウシの血液	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
300	2006/11/02	60682	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	DNase I	ウシの膵臓	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
301	2006/11/02	60683	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウサギ抗ヒト血清アルブミン抗体	ウサギの血液	日本	製造工程	無	無	無			
302	2006/11/02	60684	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	マウス抗HBsモノクローナル抗体	マウスの血液	日本	製造工程	無	無	無			
303	2006/11/02	60685	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	トリブシン	ブタの臓腑	アメリカ	製造工程	無	無	無			
304	2006/11/02	60686	メルスモン製薬	胎盤絨毛分解物	胎盤絨毛分解物	ヒト胎盤	日本	有効成分	無	無	無			
305	2006/11/06	60687	東和薬品	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 914-920	2005年7月中旬から8月末の間に中国四川省で215例のヒト連鎖球菌感染が報告され、うち66例は確定例であった。全ての感染例は、原因不明で死んだブタや病気のために食用になったブタを屠殺する過程で暴露した農業従事者で発生した。61例(28%)が連鎖球菌毒素ショック症候群を呈し、うち38例(62%)が死亡した。その他、敗血症(24%)と髄膜炎(48%)または両者であった。単離された全ての菌は tuf、種特異的16S rRNA、cps2J、mrp、ef、およびslyに対する遺伝子に陽性で、単一の株であった。
												寄生虫感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 176-177	ヒトにおけるBertiella studeri感染の報告であり、この bertiellosis症例は中国で初めての報告である。患者は Anhui省 Suzhou市の3.5歳の少年で、6ヶ月間にわたり頻りに腹痛を訴えていた。両親は便中に寄生虫がいることに気づいていた。初め、友鉤条虫と診断されたが、Bertiella studeriであった。感染源は確定されていない。
306	2006/11/07	60688	日本ビーシージー製造	乾燥BCGワクチン 乾燥BCG膀胱内用(日本株)	ウシの胆汁	ウシの胆嚢	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Dev Biol (Basel) 2006; 123: 335-345	大部分のワクチンまたはワクチン製造工程でウシ組織由来物質が使われている。ワクチン製造に使われる最初の組織を、固有のTSEリスクに基づいて選択することがまず重要であり、安全な起源の第一評価として地理的因子を用いるより安全性が高い。組織が適切に集められ、加工され、詳細な記録が保管されることは必須である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												人畜共通感染症	Dev Biol (Basel) 2006; 123: 273-280	ワクチン製造、ウイルス診断試験または原料試験に使われる細胞培養に添加する動物起源物質の使用は、ワクチンを汚染し、接種した動物で血清転換や疾患を引き起こし、検体の誤診断や間違った試験結果の原因となるおそれがある。血清や細胞培養をモニターするために獣医学生物学センターで用いられている方法を紹介した。培地や添加物としてウシやブタなどの動物起源原料を使用する際には、ヒトへの交差の可能性も考慮し、検査、血清フリー培地、起源の確認、ウイルス不活性化、検査方法の改良が必要である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2006; 87: 1043-1046	BSEに感受性のあるPRNP遺伝子型ヒツジにBSE物質を経口摂取させると、宿主の体内にプリオンが広く分布した。ARRホモ接合体ヒツジはTSEに耐性があると考えられているため、ヒツジの群れからスクレイパーを根絶し、小反芻動物BSEリスクからヒト食物連鎖を守るために選択されてきた。しかし、ARR/ARRヒツジで同様の実験を行ったところ、経口摂取の数カ月後には健康なARR/ARRヒツジの脾臓に有意な量のPrP <sup>Sc</sup> が蓄積されることが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biochem Biophys Res Commun 2006; 342: 293-299	PrP <sup>Sc</sup> 遺伝子のコドン129での多型とBSEまたはvCJDプリオンに対する感受性との関係を調べるため、ヒト化ノックインマウスにプリオン蛋白を腹腔内接種し、脾臓濾胞樹状細胞への蓄積を調べた。ヒト化ノックインマウスはBSEプリオンにはほとんど又は全く感受性を示さなかった。驚いたことに、コドン129Met/Metを持つヒト化ノックインマウスだけでなく、コドン129Met/Valを持つものもvCJDプリオンに感染した。コドン129Val/Valを持つヒト化ノックインマウスは感受性がなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1125-1128	3頭のウシの脳幹から調整したTSE単離体をC57BL/6マウスの脳内に投与した。2つの単離体は高分子量の高グリコシルPrPres (H型単離体) で、1つは典型的なBSE単離体である。大部分のマウスで感染が起こり、H型単離体に感染したマウスの脳にはH型単離体が、BSE単離体に感染したマウスには典型的BSE単離体が存在することがウエスタンブロットにより確認された。H型単離体に感染したマウスの視床には特徴的な空胞化病変がみられた。このことから、BSE単離体だけでなく、H型単離体も種のバリアを超えて病気を発現させる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Dev Biol (Basel) 2006; 123: 325-333	sCJDまたはvCJDで死亡した患者の脳標本中のPrPsc量をin vitroアッセイで国際共同研究により評価した。Conformation-Dependent Immunoassayがイムノブロット法によるアッセイより感度が高かった。ヒト二倍体細胞に種々の遺伝子型のプリオンを感染させる試みは今までのところ成功していない。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell Tissue Res 2006; 324: 497-505	PrPcは主に神経細胞に見られるが、それ以外の分布に関してはほとんど知られていない。足細胞は神経と多くの類似点があるため、ウシの腎臓を用いて、免疫組織化学的方法、R-PCR法およびELISA法により、PrPcの発現を調べた。その結果、PrPcは選択的に足細胞に局在し、特に糸球体外メサンギア細胞に顕著に発現することが明らかとなった。
307	2006/11/08	60689	大塚製薬工場	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	健康なブタの小腸粘膜抽出物	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 914-920	2005年7月中旬から8月末の間に中国四川省で215例のヒト連鎖球菌感染が報告され、うち66例は確定例であった。全ての感染例は、原因不明で死んだブタや病気のために食用になったブタを屠殺する過程で暴露した農業従事者で発生した。61例(28%)が連鎖球菌毒素ショック症候群を呈し、うち38例(62%)が死亡した。その他、敗血症(24%)と髄膜炎(48%)または両者であった。単離された全ての菌はtuf、種特異的16S rRNA、cps2J、mrp、ef、およびslyに対する遺伝子に陽性で、単一の株であった。
												E型肝炎	J Clin Virol 2006; 36: 100-102	2004年6月にハンガリーで検出されたヒトE型肝炎感染の最初の症例報告である。60才、男性で、国外への旅行歴はなく、発病の1カ月前に自家屠殺したブタの肉から作ったポークソーセージを食べていた。このE型肝炎ウイルスHungary1は遺伝子型3に属し、Hepevirus属HEVの新しいヒト変異型の可能性がある。
												レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2006; 80(S): 297	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。串焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	臨床病理 2006; 54: 408-412	千葉大学附属病院消化器内科において、原因不明とされた非A非B非C型急性肝炎126例中7例でE型急性肝炎が含まれていることが確認された。この中の1例は、発症約2カ月半前に飲食店で豚のレバ刺しを食べていた。かつては輸入感染症と考えられていたE型肝炎が国内でも発症していることが明らかとなった。
												E型肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1643-1649	IV型HEVについてヒトとブタ宿主との関係を調べるため、各々のウイルス保有率およびウイルスの遺伝的性質を調べ、また養豚場と感染のリスクとの関係を評価した。中国東部の2つの養豚地区では、ブタ9.6%、健康人0.3%で大便中からHEVが検出され、IV型サブタイプ2つが両者に共通していた。養豚に従事するヒトは他の職業のヒトより感染リスクが74%高く、養豚場の下流の住民は上流の住民より感染リスクが29%高かった。IV型HEVはブタからヒトへ自由に感染すると考えられる。
												レンサ球菌感染	N Engl J Med 2006; 354: 1325	アメリカでのStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例についての報告である。健康であった59歳の男性農業従事者が突然、発熱と錯乱を起こし、髄膜炎となった。血液と髄液培養によりS. suis感染と判明した。セフトリアキソンとバンコマイシン投与では状態が悪化したため、抗菌療法をアンピシリン静注に変更した。13日間入院後、症状はなくなり、退院した。患者は入院の数ヶ月前、子豚を近くの農場から購入したが、兄弟の子豚が髄膜炎で死んでおり、S. suisはその農場で検出された。
												細菌性胃腸炎	J Med Microbiol 2006; 55: 747-749	散発性エルシニア症の感染経路については、ブタと人との関連性は証明されていない。1995年から2003年にかけて、フィンランドとドイツで下痢のヒト282名の便およびブタ534頭の糞などから得た検体から単離された合計816株のY. enterocolitica 4/O:3を、制限酵素を使ったPFGEで関連性を検討した。その結果、両国共、ヒト由来株のほとんどはブタ由来株と区別ができず、一方、遺伝子型の大部分(182例中178例)は両国で異なっていた。両国においてブタがヒトエルシニア症の重要な起源であると考えられる。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
308	2006/11/08	60690	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	オーストラリア、ニュージーランド、コスタリカ、ニカラグア、エルサルバドル、パナマ、ウルグアイ(MCBに一部米国産を含む)	製造工程	無	無	無			
309	2006/11/08	60691	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	プラスミン	ウシ血清	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
310	2006/11/08	60692	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
311	2006/11/08	60693	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	抗不純蛋白質抗体	ウサギ血清	日本	製造工程	無	無	無			
312	2006/11/08	60694	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	抗モンテブラーゼモノクローナル抗体	マウス腹水	日本	製造工程	無	無	無			
313	2006/11/08	60695	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子組換え細胞	ベビーハムスターの腎臓	不明	製造工程	無	無	無			
314	2006/11/10	60696	テルモ	ヘパリン	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国、中国	有効成分	有	無	無	感染	ProMED20060412-0100	中国東部の河川で、死亡したブタ数十頭が発見されたが、死因は不明である。何らかの感染症が死因ではないかと警戒している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED20060420-0060	フィリピンBulacan州で子豚が致死性のウイルスによる下痢症に罹患しており、感染拡大が懸念されている。マニラでは3ヶ月ほどで豚肉が不足するおそれがある。
315	2006/11/14	60697	ワイス	ポルフィマーナトリウム	ポルフィマーナトリウム	ブタ血液	オランダ	有効成分	無	無	無			
316	2006/11/15	60698	第一ラジオアイソトープ研究所	テクネチウム人血清アルブミン(99mTc)	テクネチウム人血清アルブミン(99mTc)	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	結核	WHO 2006年9月5日	WHOは病原性が強く、致死性の結核の世界的な拡大防止の強化および措置を求めた。6クラスの第2選択薬の3クラス以上に耐性のある多剤耐性結核(XDR-TB)は世界の様々な地域で確認されており、特に旧ソビエト連邦やアジアで多い。また南アフリカではXDR-TBでHIV陽性である患者群で極めて高い死亡率が確認されている。
317	2006/11/21	60699	日本製薬	人免疫グロブリン	免疫グロブリンG	人血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 <a href="http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html">http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html</a>	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14カ国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同一であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												HIV	日刊薬業 第12105号 平成18年9月6日	日本人初のHIV-2感染者が確定された。男性は過去に西アフリカに渡航し、現地で輸血した経験があるため、これが感染経路と見られている。厚生労働省は、2型の検査も確実にを行い、検査漏れがないよう、各都道府県に通知した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 平成18年8月24日	平成18年8月23日に開催された薬事・食品衛生審議会血液事業部会安全技術調査会において、ヒト胎盤エキス(プラセンタ)注射剤使用者に対する献血制限措置を日本赤十字社が実施することが了承された。
												マラリア	AABB Weekly Report 2006; 12(32): 10	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知りながら、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。
318	2006/11/21	60700	日本製薬	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D(Rho)抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 <a href="http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html">http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html</a>	60699に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60699に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60699に同じ
												HIV	日刊薬業 第12105号 平成18年9月6日	60699に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 平成18年8月24日	60699に同じ
												マラリア	AABB Weekly Report 2006; 12(32): 10	60699に同じ
319	2006/11/22	60701	塩野義製薬	インターフェロン ガンマ-la(遺伝子組換え)	リゾチーム	ニワトリ卵白	アメリカ	製造工程	無	無	無			
320	2006/11/22	60702	塩野義製薬	インターフェロン ガンマ-la(遺伝子組換え)	リゾチーム	ニワトリ卵白	アメリカ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
321	2006/11/22	60703	三菱ウェルファーマ	肺サーファクタント	サーファクタント	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	無	無	無			
322	2006/11/22	60704	ベネシス	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D(Rho)抗体含有人免疫グロブリンG	人血液	米国	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的大おび遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白(PrP <sup>Sc</sup> )の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrP <sup>Sc</sup> が吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrP <sup>Sc</sup> は生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38 804.511644.55	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコードン129遺伝子型(MM, MV, VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝子型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	今回われわれは血液感染のハイリスクグループである血友病患者におけるHEV抗体の陽性頻度を調査した。その結果、調査した血友病患者80例の内の13例(16.3%)がHEV抗体陽性であった。過去の研究では日本人の供血者におけるHEV抗体の陽性率は3.7%、透析患者で9.4%と報告されており、血友病患者におけるHEV血液感染の可能性が示唆された。また、他のウイルスマーカーの陽性率については、HEV抗体陽性例と陰性例では差は見られなかったが、年齢が高い方がHEV抗体陽性例の割合が高かった。
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Forelに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコードン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイバーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												バルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	今まで、凝固因子製剤のバルボウイルスB19遺伝子型2による汚染は報告されていないので、市販されている21製剤の202ロットを、バルボウイルスB19遺伝子型1と遺伝子型2のDNAについてPCRにより調べた。遺伝子型1のDNAが、現在投与されているロットの77/181(42.5%)に、1980年代初めまで使用されたロットの17/21(81%)に検出された。遺伝子型2のDNAは、5/202(2.5%)に見出され、その全てが遺伝子型1のDNAに汚染されていた。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	わが国のE型肝炎の実態を明らかにする目的で、全国から総数254例のE型肝炎ウイルス感染例を集め、これを解析した。その結果、以下の知見を得た。1)HEVは全国に浸透している。2)感染者の多くは中高年(平均年齢約50歳)で、男性に多い。3)我国に土着のHEVの遺伝型は3型と4型である。4)年齢と肝炎重症度に相関がある。5)遺伝型は4型が顕在化率も重症化率も高い。6)発症時期が無季節性である。7)感染経路は、動物由来食感染が約30%、輸入感染が8%、輸血感染が2%、不明が約60%であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	血液製剤の製造工程におけるプリオンの除去に関する総説である。プリオン除去のための個々の製造工程は、実際の製造条件を実験室での条件にスケールダウンさせ、確立されているスクレイパー株をモデル系として用いて通常は評価されている。しかしながら、血液中のプリオンタンパクの存在形態が不明なので、評価実験のためのスパイク材料としてのプリオンの調製方法は注意深く考慮しなければならない。現在のところ、エタノール分画、PEG 分画、カラムクロマトグラフィー、ウイルス除去膜およびデブスフィルターでの濾過が有効とされている。
323	2006/11/22	60705	ベネシス	乾燥人フィブリノゲン	凝固性たん白質	人血液	日本	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60704に同じ
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60704に同じ



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60704に同じ
												バルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	60704に同じ
324	2006/11/22	60706	ベネシス	トロンピン	トロンピン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60704に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38 804.511644.55	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60704に同じ
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60704に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60704に同じ
												バルボウィル ス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	60704に同じ
325	2006/11/22	60707	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固区因子	血液凝固第 区因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60704に同じ
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60704に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38 804.511644.55	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neuro 2006; 5: 393-398	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60704に同じ
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60704に同じ
												パルボウイル ス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60704に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	60704に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	60704に同じ
326	2006/11/22	60708	ベネシス	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	人アンチトロンビンⅢ	人血液	日本	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60704に同じ
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60704に同じ
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60704に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60704に同じ
												バルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60704に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	60704に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	60704に同じ
327	2006/11/22	60709	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-la(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコードン129遺伝子型(MM, MV, VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMIは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060623.1743	WHOは、H5N1トリインフルエンザウイルスの限定的なヒト-ヒト伝播が5月にインドネシアの家族で起こったと発表した。しかし、疾病の拡大に大きな変化を及ぼすものではないとしている。ウイルスの変異は見られたが、ヒトの間での伝播を容易にするものではなかった。
												HTLV	J Virol 2006; 80: 7427-7438	HTLV3型は最近同定された新規のウイルスである。HTLV-3感染者由来の非培養末梢血リンパ球を用いたPCR法に基づくゲノム解析により、初めて完全なHTLV-3配列を明らかにした。HTLV-3(2026N)ゲノムは8917bpで、HTLV-1とHTLV-2とは共に約62%、STLV-3とは87-92%の配列同一性を共有した。系統発生分析ではSTLV-3に属し、霊長類起源であることが示唆された。
328	2006/11/22	60710	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-la(遺伝子組換え)	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060601.1525 ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないとして述べている。
329	2006/11/22	60711	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-la(遺伝子組換え)	バクトトリプトン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060601.1525 ProMED-mail 20060607.1588	60710に同じ
330	2006/11/22	60712	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロン ガンマ-la(遺伝子組換え)	パングレアチン	ブタ臓臓	アメリカ、カナダ	製造工程	有	無	無	レトロウイルス	Cell Transplant 2005; 14: 749-756	ランゲルハンス島移植のために使われるAN69中空ファイバー膜がブタ内因性レトロウイルス(PERV)の移行を防ぎ、PERV感染リスクを減らすかを調べた。PERV源としてPK15細胞を用いた。ヒトU293細胞を、カプセル封入PK15細胞(第1群)、カプセル封入PK15上清濃縮(第2群)、またはPK15上清濃縮(対照群)とともにin vitroでインキュベートした。第2群ではヒト細胞は全く感染しなかった。第1群では11検体中10検体は感染しなかったが、1検体は感染した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
331	2006/11/22	60713	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	マウスモノクローナル抗体		有効成分	無	無	無			
332	2006/11/22	60714	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	スイス	製造工程	無	無	無			
333	2006/11/22	60715	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
334	2006/11/22	60716	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓抽出物	アメリカ及びカナダ	製造工程	無	無	無			
335	2006/11/22	60717	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	ドイツ	製造工程	無	無	無			
336	2006/11/24	60718	ジェンザイム・ジャパン	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞		有効成分	無	無	無			
337	2006/11/24	60719	ジェンザイム・ジャパン	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血液	米国、カナダ、メキシコ	製造工程	無	無	無			
338	2006/11/24	60720	ジェンザイム・ジャパン	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	トリブシン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
339	2006/11/24	60721	ZLBベリング	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	ドイツ	有効成分	有	有	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	海洋起源のVesivirus感染がヒトでどの程度広がっているかを調べた。供血基準をクリアした供血者群、ALT値が高いため供血不可であった供血者群、非A-G肝炎患者群、および輸血または透析に関連した肝炎患者群由来の血清をVesivirusに対する抗体ならびにゲノムについて検査した。Vesivirusビリオンに対する血清陽性は、各々、12%、21%、29%、47%であった。RT-PCRの結果、SMSV Vesivirusなどとの関連性が示された。感染がヒトに広くみられることが明らかになった。
340	2006/11/27	60722	化学及血清療法研究所	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクンゲンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクンゲンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクンゲンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
341	2006/11/27	60723	化学及血清療法研究所	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ペプシン処理人免疫グロブリンG分屑	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	60722に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	60722に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60722に同じ
342	2006/11/27	60724	化学及血清療法研究所	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ペプシン	ブタ胃粘膜	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
343	2006/11/27	60725	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物・製造工程	有	無	無	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	60722に同じ
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	60722に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60722に同じ
344	2006/11/28	60726	ワイス	エタネルセプト(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター 卵巢細胞	チャイニーズハムスター 卵巣	不明	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
345	2006/11/29	60727	東レ	インターフェロン ベータ	インターフェロン ベータ	ヒト線維芽細胞	日本	有効成分	無	無	無			
346	2006/11/29	60728	東レ	インターフェロン ベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	無	無	無			
347	2006/11/29	60729	東レ	インターフェロン ベータ	乳糖	ウシ乳	オランダ、ドイツ、ベルギー、ルクセンブルグ	添加物	無	無	無			
348	2006/11/29	60730	東レ	インターフェロン ベータ	ウシ血清	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
349	2006/11/29	60731	東レ	インターフェロン ベータ	トリブシン	ブタ脾臓抽出物	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	無	無	無			
350	2006/11/29	60732	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	有	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
351	2006/11/29	60733	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	有			
352	2006/11/29	60734	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	インターフェロン ガンマ-nl	ヒトミエロノサイト細胞株	アメリカ	有効成分	無	無	有			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
353	2006/11/29	60735	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	抗ハムスター胸腺細胞ウサギ抗血清	ウサギ血液	アメリカ	製造工程	無	無	有			
354	2006/11/29	60736	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	抗IFN- $\gamma$ モノクローナル抗体	マウスハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	有			
355	2006/11/29	60737	大塚製薬	インターフェロン ガンマ-nl	ハムスター(ヒトミエロモノサイト細胞を皮下で増殖)	ハムスター	日本	製造工程	無	無	有			
356	2006/12/01	60738	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌荚膜ポリサッカライド	肺炎球菌荚膜	米国	有効成分	無	無	無			
357	2006/12/01	60739	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	ヘミン	ウシ	米国及び製造時にBSE問題のない国	製造工程	無	無	無			
358	2006/12/01	60740	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
359	2006/12/01	60741	セローノ・ジャパン	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	抗FSHマウスモノクローナル抗体	マウス	イタリア	製造工程	無	無	無			
360	2006/12/01	60742	セローノ・ジャパン	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	人尿	韓国	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
361	2006/12/01	60743	セローノ・ジャパン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(34) 2006年8月24日	米国における水疱性口内炎: 報告日-2006年8月18日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、アウトブレイクの詳細-Wyoming州, Natrona郡の農場における1件(アウトブレイクの開始日2006年8月13日): ウマにおいて疑い例30例, 症例1例, ウシにおいて疑い例25例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(37) 2006年9月14日	米国における水疱性口内炎Follow-up report No.3: 今回報告終了日-2006年9月11日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、最後のfollow-up report報告以降、新規アウトブレイクは報告されていない。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(38) 2006年9月21日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.4: 今回報告終了日-2006年9月19日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新規アウトブレイク-Wyoming州, Converse郡などの農場における3件(アウトブレイクの開始日2006年8月30日~2006年9月6日): ウマにおいて疑い例8例, 症例3例, ウシにおいて疑い例400例, 症例5例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(39) 2006年9月28日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.5: 今回報告終了日-2006年9月26日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新規アウトブレイク-Wyoming州, Converse郡の農場(アウトブレイクの開始日2006年9月10日): ウシにおいて疑い例60例, 症例1例。
												炭疽	ProMED-mail20060615.1665	米国ミネソタ州Kittson郡のウシの群で、2006年6月10日~11日に、雌ウシ5頭および雄ウシ1頭が死亡しているのが発見された。血液サンプルが収集され、炭疽に陽性であったことが確定した。2006年6月15日現在、合計6例が死亡した。
												炭疽	ProMED-mail20060626.1775	米国North Dakota州Emmons郡においてウシ2例が炭疽で死亡した。同州において2006年で初の症例である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060707.1868	米国Minnesota州で、2006年6月中旬にMinnesota Board of Animal Healthが2施設での炭疽による死亡を初めて報告してから、新たに9施設において家畜の死因として炭疽が確認された。この9施設で動物24例が死亡し、計31例の死亡となった。7施設はKittson郡にあり、ウマおよびバッドファローにおいて炭疽が確認された。残り2施設はWoods郡であり、Woods郡のLakeの家畜において初めて記録された炭疽による死亡である。
												炭疽	ProMED-mail20060726.2057	米国Texas州で、Val Verde郡のシカ、およびCrockett郡のウシにおいて炭疽が確定された。
												炭疽	ProMED-mail20060724.2044	米国South Dakota州の家畜に再び炭疽が発生している。Hyde郡のワクチン接種を受けていないウシの集団(最初に死亡した5例を含む約100例)における炭疽が報告され、2006年7月24日に州獣医診断研究所は診断を確定した。
												炭疽	ProMED-mail20060721.2010	米国Minnesota州は87年間で最悪の家畜の炭疽のアウトブレイクに取り組んでいる。2006年6月中旬から、Minnesota州北西部の23の農場において、家畜68頭が死亡した。死亡した家畜の多くはウシであったが、バイソン5例およびウマ6例も死亡した。この最近のアウトブレイクはKittson, Roseau, Red LakeおよびLake of the Woods郡に限定されている。カナダも炭疽のアウトブレイクを報告している。
												炭疽	ProMED-mail20060817.2300	米国South Dakota州のウシの群において、2006年で2例目の炭疽症例が確認されたLincoln郡において最近炭疽が発見され、ワクチン未接種の51頭のウシの群の3頭が死亡した。2005年に500例を超えるウシ、バイソン、シカがSouth Dakotaで炭疽により死亡した。
												炭疽	ProMED-mail20060811.2256	米国Minnesota州で、炭疽による死亡が確認された施設がさらに2つ追加された。これらはMarshall郡およびPolk郡にある。炭疽が原因の死亡の最新報告は2006年7月25日の肉牛における炭疽である。
												炭疽	ProMED-mail20060921.2699	米国Texas州で、2006年9月18日に、Texas Department of Health Servicesは獣医公衆衛生担当官らに、Texas Veterinary Medical Diagnostic Laboratory (TVMFL)によりKinney郡の4才のウシで炭疽の診断が確定されたことについて注意喚起を行った。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060706.1858	Canadian Food Inspection Agency (CFIA) は、最近10日間で炭疽が疑われるウシの死亡76頭を報告した。検査で3例が陽性症例と確定された。洪水で土壌の細菌に暴露したことが炭疽のアウトブレイクの原因と考えられる。
												炭疽	ProMED-mail20060726.2059	カナダChaplin地域の農場においてウシ3例が炭疽で死亡しているとCanadian Food Inspection Agencyが2006年7月21日に述べた。この夏、炭疽はSaskatchewanで既に発生しており、7月21日現在50の農場で216頭の動物が死亡している。
												炭疽	ProMED-mail20060912.2581	カナダSaskatchewanで動物の炭疽による死亡は779頭に達した(先週53頭が死亡)。先週5つの牧場施設における感染が新たに報告された。
												炭疽	ProMED-mail20060916.2635	カナダSaskatchewanにおいて153施設で炭疽が確認された。これら施設における動物(ウシ, ウマ, ブタ, ヒツジ, バイソン, シカ, ヤギ)の死亡は783件である。Manitobaにおいては変更ない。
												BSE	ProMED-mail20060617.1680	Canadian Food Inspection Agencyは、2006年4月16日に確認されたBritish Columbia州のウシにおけるBSE症例についての調査を終了した。特定の感染源は発見されていないが、調査員らは、種々の原料を運んだり、受け取った乗り物および道具がBSEの病原因子によりウシの飼料を汚染した可能性があると決定した。この症例とカナダにおける4例目のBSEの動物への飼料の原料供給業者が共通していることも確認された。
												BSE	ProMED-mail20060706.1855	カナダManitobaの食用の成牛1例において最終検査結果によりBSEが確定され、Canadian Food Inspection Agencyは包括的な調査を実施している。
												BSE	ProMED-mail20060714.1937	カナダAlberta州の50月令の乳牛がBSEであることが確定された(カナダで7例目)。このウシは7月10日に予備検査に基づいて初めて報告された。このウシは焼却処分され、ヒトまたは動物の食物連鎖に含まれていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED-mail20060825.2413	Canadian Food Inspection Agency (CFIA) は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月令の乳牛に関する疫学的調査の結論を出した。このウシの死骸はヒトまたは動物の食物(飼料)系に入っていない。禁止された物質によりウシの飼料1バッチが汚染された可能性のある事例が1軒の飼料販売店で記録されており、このバッチの飼料全てがBSE陽性のウシの農場へ送られた。この飼料が最も可能性の高い感染源である。
												BSE	ProMED-mail20060823.2384	2006年8月23日、カナダで、Alberta州の肉用の雌牛がBSEであることがCanadian Food Inspection Agency (CFIA)により確定された。オーナーなどにより提供された予備情報によると、この動物の年齢は8から10才であり、飼料に関する禁止令導入前または実施早期にBSE因子に暴露した可能性がある。
362	2006/12/01	60744	セローノ・ジャパン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年6月16日	中国におけるトリインフルエンザの状況 (update12) : 中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国19例目のヒト感染症例を確認した。患者はGuangdong省Shenzhen市の31才の男性で、6月3日に発症した。感染源についての調査が実施されており、予備的報告では、症例は発症前に、生きた家禽が売られている地域の市場を訪れたことが示された。この地域では家禽におけるH5N1感染は公式に報告されていない。現在までに報告された中国における検査確認された19例のうち、12例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060713.1934	中国のGuangdong省における最も最近のトリインフルエンザのヒト症例は回復の徴候を示している。この症例との密接な接触者98例において、疑われる症状(肺炎またはトリインフルエンザ様症状)は確認されていない。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060804.2158	中国のGuangdong省における、最近のトリインフルエンザ患者(Shenzhenの31才トラック運転手)が2006年8月2日に退院したと地元保健当局が発表した。この患者は中国で回復したトリインフルエンザ患者の中で、最も重症であった。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060622.1729	2003年11月(中国がWHOにヒト感染について報告した2年前)に中国本土でトリインフルエンザにより男性が死亡したことを、Beijingの科学者らが2006年6月22日に発行予定の医学雑誌(New England Journal of Medicine)で述べた。男性の死亡は当初SARSが原因であると考えられた。このことは、SARSによると考えられた他の症例も実際にはH5N1トリインフルエンザによる死亡だった可能性を示唆する。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060629.1800	中国衛生省は、2003年11月にH5N1トリインフルエンザで死亡した男性症例に関する報告(N Engl J Med 2006; 354: 2731-2732)について独自の調査を実施している。この報告は8名の中国の研究者によるもので、当局は同誌に発表されるまでこの症例を知らなかったと言っている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年8月8日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update13):2006年8月8日に中国衛生省は、2003年11月に遼リH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例をレトロスペクティブに確認した。症例はBeijingを拠点とする軍人の24才男性で、2003年11月25日に発症し、重症呼吸器疾患で12月3日に死亡した。本症例の確認により、中国本土における最初のH5N1ヒト感染事例が明らかとなり、現在のアウトブレイクにおいて最初に確認された症例となる。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060812.2261	中国衛生当局は連絡の問題により、H5N1トリインフルエンザのヒトにおける初めての症例の報告に2.5年の遅延があったことを2006年8月10日に発表した。Beijingの24才の軍人が2003年後期にトリインフルエンザに感染していた。中国はこの症例を中国の研究者らがNew England Journal of Medicineにおいてレターを発表した後に初めて確認した。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年8月14日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update14):中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国で21例目のヒト感染症例を確認した。症例はXinjiang Uygur自治区の62才男性で、2006年6月19日に発症し、7月12日に死亡した。症例の検体に関する初期検査は陰性であった。7月および8月に検査を繰り返し行ったところ、最終的に陽性結果であったことが、2006年8月14日に衛生省により確認された。症例の疫学的調査により死亡または病気のトリへの暴露歴を明らかにすることはできなかった。
												デング熱	ProMED-mail20060608.1593	香港で健康予防センター(Centre for Health Protection)は2006年6月1日にデング熱の輸入症例(36才、男性)を確認した。患者はマレーシア在住である。2006年で12例目の輸入症例である。
												デング熱	ProMED-mail20060604.1553	台湾の環境保護局はデング熱のアウトブレイクに対して予防措置をとるよう呼びかけた。蚊が発生する場所をなくすることが唯一の予防策であると言っている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	ProMED-mail20060719.1989	台湾Kaohsiungで2006年7月6日に初めての固有のデング症例が発見された。続いて更に6例が発見され、合計7例となった。デング蚊指数は常に高く、検査された地域の約92%で警戒レベルである。
												デング熱	ProMED-mail20060730.2110	台湾の疾病管理センターは南部でデング熱の脅威が増加するおそれがあると2006年7月25日に発表した。今年のデング熱症例は59例であるが、そのうち17例が国内で感染しており、17例中15例がKaohsiung Cityで報告されている。
												デング熱	ProMED-mail20060806.2196	Kaosiungにおけるデング熱のアウトブレイクの悪化は継続していること、2006年7月6日にKaosiungのQienzeng地区でデング熱症例が報告されて以降、デング熱の発生は悪化している。これまでに報告された症例は28例で、同地区で25例、Qianjin地区で3例である。
												デング熱	ProMED-mail20060901.2486	香港でMa On Shanの62才の男性がデング熱を確認された。2006年7月1日から28日まで中国本土へ旅行し、2006年8月1日に発熱し、現在は回復している。本年の症例数は22例で、全て輸入症例である。
												デング熱	ProMED-mail20060911.2577	2006年9月4日現在、中国Guangdong省で、先週、デング熱症例数が倍以上の219例となり、半数がまだ入院中である。中国の専門家らは最近の高温多湿の天候や、蚊に対する取り組みが不十分であることがアウトブレイクの原因であるとしている。台湾では第35週(2006年8月27日～9月2日)に、デング熱症例90例が報告され、31例は検査で確認された。9月2日現在、今年の報告症例数は721例で、そのうち202例が確認された。死亡例は報告されていない。
												ハンタウイルス	ProMED20060513-0010	2006年3月、台湾CDC(疾病管理センター)は、検査室で確認されたハンタ腎症候性出血熱(HFRS)の患者3人の集団発生の報告を受けた。3人の患者は同室者で、海軍に従軍して、2006年1月24日から軍艦に滞在していた。ELISA法にて、ハンタウイルスIgMおよびIgG抗体とも陽性で、IFA法によって、Seoul亜型であることが判明した。軍艦と寮施設の13匹の齧歯類のうち、6匹が(ハンタウイルス)検査陽性であった。新たな疑い例の発生があり、5月3日から軍人全員が軍艦から退去した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染	ProMED-mail20060621.1712	2006年6月12日以降、中国Shaanxi省Mizhi郡において生徒および教師60名が熱性疾患を発症している。大部分の生徒は高温および乾燥した空気が原因の呼吸器感染症を発症したと考えられ、より少数の生徒は流行性耳下腺炎および百熱咳を患っている。病原体の特定はまだされていない。
												インフルエンザ	ProMED-mail20060624.1757	中国で、2006年6月11日～22日に、Guangzhou大学の130名を超える学生および職員がインフルエンザ(インフルエンザ型疾患)に感染した。同様の症例は同市の他の学校においても発生している。主な症状は発熱で、重症にはならない。
												感染	ProMED-mail20060828.2449	中国南西のYunnan省のLuliang郡Xincun村で、住民39例が重度の疼痛に苦しみ、2006年8月22日までに1例が死亡し、3例が入院した。最初の調査結果により腸チフスが示唆された。
												日本脳炎	ProMED-mail20060827.2441	中国Shanxi省Yuncheng市で日本脳炎のアウトブレイクによる死亡の合計は19例に増加し、感染者は38例であると地域保健当局が2006年8月12日に述べた。Henan省ではさらに14例が日本脳炎で死亡し、既に報告された26例の死亡に追加された。2006年7月以降、437例が感染したとHenan省保健当局は述べた。
												日本脳炎	ProMED-mail20060909.2565	台湾の届出伝染病サーベイランスシステムに基づき、2006年8月27日～2006年9月2日に日本脳炎が台湾で7例報告された。2006年9月2日時点で、2006年に台湾全域で188例報告され、このうち20例が確認された。1例はベトナムからの輸入症例、19例は地域症例である。
												炭疽	ProMED-mail20061002.2822	Shaanxi省において1家族の3人が、病気のヤギを食べた後に炭疽に感染し、病院にて隔離・治療を受けている。
												赤痢	ProMED-mail20061020.3015	Sichuan省Mianzhu市の中学校において生徒100人余りが細菌性赤痢となり、計143人が症状を呈している。2006年10月10日から症状がみられ始めた。Anhui省Taihu郡の学校において細菌性赤痢が確認され(2006年10月13日に生徒数名において発見)、100名に症状がみられ、34例が入院中である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
363	2006/12/01	60745	日本赤十字社	解凍人赤血球濃厚液	解凍人赤血球濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	中日新聞 Chunichi Web Press 2006年9月4日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界で感染が広がっている主流のHIV1型とは遺伝子タイプが異なる2型に日本人が初めて感染したことを、厚生労働省のエイズ研究班が確認したことが9月3日分かった。厚生労働省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。同省は「滞在していた地域では2型が流行しており、現地での輸血が感染原因とみられる」としている。
												マラリア	CDC 2006年6月30日	米国疾病対策予防センターは、パハマのグレートエグズーマ島におけるマラリア発生を確認し、旅行者に対して抗マラリア薬の使用を勧告した。2006年6月29日現在、患者数は合計18例で、うち4例が旅行者である。全員 Plasmodium falciparumに感染していた。
												マラリア	ProMED-mail20060624.1758	キルギスタンの首都で79例のマラリア症例が登録された。予防手段を講じているにもかかわらず、流行が拡大中である。住民に問題を理解させるのが難しく、衛生疫学監視センターの職員は時々しか殺虫剤を散布できない。
												マラリア	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(37): 1013-1016	2006年9月19日、CDCは米国在住のグレートエグズーマ島渡航者向けの抗マラリア薬服用勧告を解除した。2006年5月～6月の間に合計19例のマラリア症例が確認されたが、3ヶ月間新規症例の報告がなかったためである。
												マラリア	AABB Weekly Report 2006年9月15日	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知りながら、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。
												トリパノソーマ症	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(29): 798-800	ロサンジェルスでの心臓移植患者2名で、臓器移植によるシャーガス病伝播が見られた。1例は拒絶反応による合併症で死亡し、もう1例は心不全で死亡した。両例ともドナーがTrypanosoma cruzi感染者であったことが明らかとなった。米国における固形臓器移植によるT. cruzi伝播としては4例目と5例目になる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。
												バルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	ヒトバルボウイルスB19DNA(1.6x10 <sup>8</sup> IU/mL)を含むプール血漿の輸血後、B19 IgG陽性の患者では抗体価が19-39 IU/mLから50-100 IU/mLに上昇して再感染を防いだ。それに対し、陰性の患者では、1.6-2.2 x 10 <sup>8</sup> IU/mLのB19DNAの存在下で、プール血漿のIgGレベルが59.5 IU/mLではB19の伝播とセロコンバージョンを防ぐのは不十分であることがわかった。
												バルボウイルス	Transfusion 2006; 46:1593-1600	バルボウイルスB19ジェノタイプ3流行地域であるガーナで、114組の成人供血者-小児受血者ペアにおける輸血によるB19の伝播および免疫学的特性について調べた。2例の供血がバルボウイルスB19DNAと特異的抗体を含有していたが、伝播は見られなかった。B19 IgG含有の全血がB19DNA陽性受血者14例に輸血されていたが、その内、輸血前にVP2に対する抗体が認められなかった10例ではウイルスが除去された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	PrPcは全身の多数の組織に存在し、血小板に大量に存在する。静止血小板ではα顆粒膜上に存在することが知られているが、その生理学的機能は不明である。血小板中のPrPcの局在を調べたところ、血小板が活性化すると、血小板表面上にPrPcが一時的に発現し、続いて、微小胞およびエキソソーム上への放出が起こることが明らかとなった。血小板由来エキソソーム上にPrPcが存在するという事は、血中でのPrPc輸送および細胞間伝播におけるメカニズムを示唆する。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2006 Sep 1; 16	外科用器具には殺菌後も依然としてクロイツフェルトヤコブ病(CJD)が残存する可能性が明らかとなった。エジンバラ大学研究チームは、タンパク質による平均汚染量が器具1mm <sup>2</sup> あたり0.2μgであり、ヒトへの感染に必要な量をかなり上回る数値であることを認めた。最大量は、扁桃腺(プリオンが分布することが知られている組織のひとつ)の切除に用いた器具で認められた。同チームは、保健省に対し、同チームが開発したガスプラズマ滅菌の広範な導入を推奨している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006 年5月2日	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイパーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月21日	アイルランド輸血サービスは、CJDの病因となるプリオンを供血血液から除去するために開発された新しい装置を1年間使用した後、試用の中止を決定した。血液サービスは昨年、そのフィルター装置を購入したが、十分な効果が得られず、CJDプリオンは捕捉されずに通過し、供血中に混入する可能性があるためである。
												BSE	ABC Newsletter 2006年9月22日 16ページ	欧州協議会は2005年の反芻動物(有蹄動物)における伝達性海綿状脳症(TSE)のモニタリングと検査に関する報告書を公表した。TSE検査を行った1千万頭以上のウシのうち、陽性となったのは561頭のみであった。2005年の調査結果は陽性例が引き続き減少していることを示している。
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	2005年4月1日から2006年2月28日の間に、フランスで307例のチングンヤ輸入例が同定された。平均年齢は47歳(7-81歳)であった。月別の輸入例数はレユニオンでの発生状況と関連が見られた。自発例は2006年3月に1例発生したが、輸入例患者を看護した看護師で、インド洋への旅行歴はなく、血液の暴露による感染と考えられた。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	2003年12月及び2005年4月に固形臓器の移植を受けた2つの患者群の感染症について調べた。レシピエント全員(8名)の検体からリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)が検出されたが、ドナー(2名)からは検出されなかった。2005年群のドナーはLCMVに感染したハムスターをペットとして飼っていたが、2003年群の感染源は不明であった。レシピエント8例中7例は移植後9日から76日で死亡した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	2005年12月以降、チクンゲンヤウイルス感染のアウトブレイクがインドの8つの州で続いており、拡大するおそれがある。最も被害の大きい5つの州では896500例以上の疑い例が報告されている。北部の州からは1例も報告されていない。ヨーロッパの多数の国で輸入症例が報告されている。感染の拡大防止ならびに特異的な抗ウイルス薬とワクチンの開発が急務である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	ヨーロッパでのB型肝炎発生率は北西部が低く(1%以下)、南部が高い(5-15%)。北西部では抗HBcスクリーニングが導入され、南部ではHBV-NATが導入される傾向がある。B型肝炎ウイルス陽性となった供血者と血液の管理に関して、ヨーロッパではHBV DNA、HBc抗体陽性でHBs抗体レベルが100IU/L以上の場合には供血を続けることができるというリエントリー・アルゴリズムが検討されている。
												B型肝炎	Vox Sang 2006; 91: 237-243	ドイツ赤十字血液センターの供血者10000名を、現行のPRISM®HBcおよび新規PRISM®Hbcore検査を用いたHBc抗体のスクリーニングを実施し、診断感度および特異性を調べた。両者とも約1.8%がHBc抗体陽性であることを示し、感度は同等であったが、特異性はPRISM® Hbcoreの方が有意に高かった。この検査が陽性であった188検体について、さらに7種類の抗HBc検査、2種類の抗HBs検査、1種類の抗Hbe検査、3種類のHBV NAT検査を行って、検査結果を比較した。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	輸血用血液製剤のHBV、HCV、HIVについて、2000年2月から2004年1月までの4年間の遡及調査を行った。調査は、主に複数回献血者において感染症マーカーが陽転した場合に前回の血液サンプルを個別NATで精査するもので、HBVについては50プールのNAT、HBsAg、HBcAbのいずれかの陽転例約16000人について前回の保管検体を調べた。副作用報告による感染例を合すると、日本では輸血によるHBV感染が1年に約19例、HCV感染は4年に1例、HIV感染は2年に1例起こるものと推定された。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会2006年6月 9-11日	医療機関において輸血後感染症の全数調査を実施したところ、輸血後陽転例はHBVで9例(0.9%)存在し、1例のみが輸血後B型肝炎と診断され、他の8例は感染晩期のHBVキャリアで再活性化が起こったと考えられた。HCVとHIVでは輸血後陽転例はみられなかった。
												B型肝炎	日本輸血学会雑誌52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会2006年6月 9-11日	日本の献血者におけるHBV NAT陽性者について解析したところ、20歳代ではHBV感染初期、50歳代、60歳代では感染晩期の陽性例が多かった。陽性数の高い地域は千葉県から愛知県までの太平洋側と大阪府であった。HBV Genotype Aは101例(女性1例)検出され、全国に広がる傾向が見られた。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会2006年6月 9-11日	2005年に全国の医療機関から日本赤十字社へ報告された輸血感染症(疑い症例を含む)の現況とその傾向についての報告である。2005年輸血感染症症例(疑い症例を含む)報告数は12月22日現在260例で、内訳は、HBV:127、HCV:71、HEV:2、HIV:2、CMV:3、ヒトパルボウイルスB19:3、細菌:52であった。この内、輸血との因果関係が高いと評価した症例は、HBV:10例、HCV:1例、HEV:1例、ヒトパルボウイルスB19:3例であった。
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	スペインの肝臓及び消化器専門クリニック数施設における急性C型肝炎の全報告例についてレトロスペクティブ疫学解析を行った。1998年から2005年の急性C型肝炎患者103例を対象とした。大部分の症例で感染に関連する唯一の立証されたリスクファクターは入院であった。
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血しょう検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンブロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生的分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
364	2006/12/14	60747	ベネシス	ポリエチレングリコール処理抗破傷風人免疫グロブリン 乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	人血液	米国	有効成分	有	無	無	E型肝炎	肝臓 2006; 47(Suppl 1): A168	今回われわれは血液感染のハイリスクグループである血友病患者におけるHEV抗体の陽性頻度を調査した。その結果、調査した血友病患者80例の内の13例(16.3%)がHEV抗体陽性であった。過去の研究では日本人の供血者におけるHEV抗体の陽性率は3.7%、透析患者で9.4%と報告されており、血友病患者におけるHEV血液感染の可能性が示唆された。また、他のウイルスマーカーの陽性率については、HEV抗体陽性例と陰性例では差は見られなかったが、年齢が高い方がHEV抗体陽性例の割合が高かった。
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。
												異型クワイツ フェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクワール病患者を確認したが、全員がSouth Forelに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクワール病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。
												異型クワイツ フェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイパーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												バルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	今まで、凝固因子製剤のバルボウイルスB19遺伝子型2による汚染は報告されていないので、市販されている21製剤の202ロットを、バルボウイルスB19遺伝子型1と遺伝子型2のDNAについてPCRにより調べた。遺伝子型1のDNAが、現在投与されているロットの77/181(42.5%)に、1980年代初めまで使用されたロットの17/21(81%)に検出された。遺伝子型2のDNAは、5/202(2.5%)に見出され、その全てが遺伝子型1のDNAに汚染されていた。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	わが国のE型肝炎の実態を明らかにする目的で、全国から総数254例のE型肝炎ウイルス感染例を集め、これを解析した。その結果、以下の知見を得た。1)HEVは全国に浸透している。2)感染者の多くは中高年(平均年齢約50歳)で、男性に多い。3)我国に土着のHEVの遺伝型は3型と4型である。4)年齢と肝炎重症度に相関がある。5)遺伝型は4型が顕在化率も重症化率も高い。6)発症時期が無季節性である。7)感染経路は、動物由来食感染が約30%、輸入感染が8%、輸血感染が2%、不明が約60%であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	血液製剤の製造工程におけるプリオンの除去に関する総説である。プリオン除去のための個々の製造工程は、実際の製造条件を実験室での条件にスケールダウンさせ、確立されているスクレイパー株をモデル系として用いて通常は評価されている。しかしながら、血液中のプリオンタンパクの存在形態が不明なので、評価実験のためのスパイク材料としてのプリオンの調製方法は注意深く考慮しなければならない。現在のところ、エタノール分画、PEG分画、カラムクロマトグラフィー、ウイルス除去膜およびデプスフィルターでの濾過が有効とされている。
365	2006/12/14	60748	ベネシス	ウロキナーゼ注射剤	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	E型肝炎	肝臓 2006; 47(Suppl 1): A168	60747に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60747に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60747に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60747に同じ
												バルボウィル ス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60747に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60747に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	60747に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	60747に同じ
366	2006/12/15	60749	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	無	無	無			
367	2006/12/15	60794	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ヒトγグロブリン	ヒト血液	フィンランド、スウェーデン	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
368	2006/12/15	60795	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	有	無	無	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月8日	2006年6月15日にManitobaで安楽死させた病牛は、ウエスタンプロット法と免疫組織化学法により7月3日にBSEと確定された。カナダにおける6頭目のBSE牛であるが、過去の5例とは異なるBSE株であり、ヨーロッパやアメリカで報告されている少数株である。CFIAは直ちにOIE BSEガイドラインに基づいた疫学的調査を開始した。所有者の記録によると、このウシは16か17歳であり、1997年以前に肉・骨粉を含んだ餌を食べた可能性があるが、供給源は不明である。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	カナダ食品検査局調査官は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月齢の乳牛に関する疫学的調査を終了した。このウシはカナダで7頭目のBSE牛である。問題の牛のどの部分も、ヒトおよび動物の食物システムには含まれていない。
369	2006/12/15	60796	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ペプトン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月8日	60795に同じ
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	60795に同じ
370	2006/12/15	60797	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	加水分解カゼイン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月8日	60795に同じ
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	60795に同じ
371	2006/12/15	60798	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	ニュージーランド、米国	製造工程	有	無	無	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月8日	60795に同じ
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	60795に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
372	2006/12/15	60799	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国	製造工程	有	無	無	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月8日	60795に同じ
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	60795に同じ
373	2006/12/15	60800	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	コレステロール	ヒツジ毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
374	2006/12/15	60801	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	マウス骨髄腫由来NSO細胞	マウス骨髄腫	不明	製造工程	無	無	無			
375	2006/12/18	60750	ジェンザイム・ジャパン	イミグルセラゼ(遺伝子組換え)	イミグルセラゼ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞		有効成分	無	無	無			
376	2006/12/18	60751	ジェンザイム・ジャパン	イミグルセラゼ(遺伝子組換え)	ポリゼリン	ウシ骨抽出物	米国	製造工程	無	無	有			
377	2006/12/18	60752	ジェンザイム・ジャパン	イミグルセラゼ(遺伝子組換え)	ドナー仔牛血清	ドナー仔牛血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
378	2006/12/18	60753	ジェンザイム・ジャパン	イミグルセラゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシ胎仔血液	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
379	2006/12/18	60754	持田製薬	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会(2006年4月20-21日)	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
												鳥インフルエンザ	CDC 2006年6月30日	種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒト-ヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に拡がるように変化しうることを科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。
												ウイルス感染	CBS News/Healthwatch 2006年8月22日	中国Hunan省中部のChenzhou市でヒトボカウイルス感染の6症例(全て1歳以下の乳幼児)が報告された。これは新たに同定されたウイルスによる中国での最初の感染例である。
												HIV	asahi.com 健康 2006年9月4日	日本人で初めてHIV2型の感染者が確認された。この男性は過去に西アフリカで輸血を受けたことがあり、このときの輸血が感染源とみられている。厚生労働省は1型だけでなく、2型についても検査体制を徹底するよう通知した。
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
380	2006/12/19	60755	鳥居薬品	アレルゲンエキス	アレルゲンエキス	Alternaria kikuchiana		有効成分	無	無	無			
381	2006/12/19	60756	鳥居薬品	アレルゲンエキス	アレルゲンエキス	Penicillium luteum		有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
382	2006/12/19	60757	鳥居薬品	アレルゲンエキス	アレルゲンエキス	Cladosporium cladosporioides		有効成分	無	無	無			
383	2006/12/19	60758	鳥居薬品	アレルゲンエキス	アレルゲンエキス	Candida albicans		有効成分	無	無	無			
384	2006/12/19	60759	鳥居薬品	アレルゲンエキス	アレルゲンエキス	Aspergillus fumigatus		有効成分	無	無	無			
385	2006/12/20	60760	日本赤十字社	人赤血球濃厚液	人赤血球濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	中日新聞 Chunichi Web Press 2006年9月4日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界で感染が広がっている主流のHIV1型とは遺伝子タイプが異なる2型に日本人が初めて感染したことを、厚生労働省のエイズ研究班が確認したことが9月3日分かった。厚生労働省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。同省は「滞在していた地域では2型が流行しており、現地での輸血が感染原因とみられる」としている。
												マラリア	CDC 2006年6月30日	米国疾病対策予防センターは、パハマのグレートエグズーマ島におけるマラリア発生を確認し、旅行者に対して抗マラリア薬の使用を勧告した。2006年6月29日現在、患者数は合計18例で、うち4例が旅行者である。全員 Plasmodium falciparum に感染していた。
												マラリア	ProMED-mail20060624.1758	キルギスタンの首都で79例のマラリア症例が登録された。予防手段を講じているにもかかわらず、流行が拡大中である。住民に問題を理解させるのが難しく、衛生疫学監視センターの職員は時々しか殺虫剤を散布できない。
												マラリア	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(37): 1013-1016	2006年9月19日、CDCは米国在住のグレートエグズーマ島渡航者向けの抗マラリア薬服用勧告を解除した。2006年5月～6月の間に合計19例のマラリア症例が確認されたが、3ヶ月間新規症例の報告がなかったためである。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	AABB Weekly Report 2006年9月15日	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知りながら、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。
												マラリア	ProMED-mail20061004.2843	中国東部の安徽省でマラリア感染が拡大している。地元保健当局によると、今年に入ってから2006年9月25日時点で17917例が報告されており、昨年の同時期と比較すると89.8%増加している。保健当局は緊急通告を出して、感染の監視を強化し、拡大防止のためにマラリア予防と治療に関する啓発を行うよう地元自治体に要請した。
												トリパノソーマ症	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(29); 798-800	ロサンジェルスで心臓移植患者2名で、臓器移植によるシャーガス病伝播が見られた。1例は拒絶反応による合併症で死亡し、もう1例は心不全で死亡した。両例ともドナーがTrypanosoma cruzi感染者であったことが明らかとなった。米国における固形臓器移植によるT. cruzi伝播としては4例目と5例目になる。
												トリパノソーマ症	Vox Sang 2006; 91(Suppl 3): 98	フランスでリスクのある供血者に対し、シャーガス病スクリーニング検査を行うこととなり、Bioelisa Chagas、Chagatek、Ortho T.cruzi ELISA Test System <sup>1</sup> 、ELISA Cruzi の4種類のTrypanosoma cruzi ELISAキットの感受性、再現性、特異性を評価した。感受性に関しては4種類の検査法で正確に検出された。再現性は24コピーのS/CO値の平均の変動係数によって示され、各々、6.30%、9.30%、15.7%、22.40%であった。
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。
												バルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	ヒトバルボウイルスB19DNA(1.6x10 <sup>10</sup> IU/mL)を含むプール血漿の輸血後、B19 IgG陽性の患者では抗体価が19-39 IU/mLから50-100 IU/mLに上昇して再感染を防いだ。それに対し、陰性の患者では、1.6-2.2 x 10 <sup>10</sup> IU/mLのB19DNAの存在下で、プール血漿のIgGレベルが59.5 IU/mLではB19の伝播とセロコンバージョンを防ぐのは不十分であることがわかった。
												バルボウイルス	Transfusion 2006; 46:1593-1600	バルボウイルスB19ジェノタイプ3流行地域であるガーナで、114組の成人供血者-小児受血者ペアにおける輸血によるB19の伝播および免疫学的特性について調べた。2例の供血がバルボウイルスB19DNAと特異的抗体を含有していたが、伝播は見られなかった。B19 IgG含有の全血がB19DNA陽性受血者14例に輸血されていたが、その内、輸血前にVP2に対する抗体が認められなかった10例ではウイルスが除去された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	PrP <sup>c</sup> は全身の多数の組織に存在し、血小板に大量に存在する。静止血小板ではα顆粒膜上に存在することが知られているが、その生理学的機能は不明である。血小板中のPrP <sup>c</sup> の局在を調べたところ、血小板が活性化すると、血小板表面上にPrP <sup>c</sup> が一時的に発現し、続いて、微小胞およびエキソソーム上への放出が起こることが明らかとなった。血小板由来エキソソーム上にPrP <sup>c</sup> が存在するという事は、血中でのPrP <sup>c</sup> 輸送および細胞間伝播におけるメカニズムを示唆する。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2006 Sep 1; 16	外科用器具には殺菌後も依然としてクロイツフェルトヤコブ病(CJD)が残存する可能性が明らかとなった。エジンバラ大学研究チームは、タンパク質による平均汚染量が器具1mm <sup>2</sup> あたり0.2μgであり、ヒトへの感染に必要な量をかなり上回る数値であることを認めた。最大量は、扁桃腺(プリオンが分布することが知られている組織のひとつ)の切除に用いた器具で認められた。同チームは、保健省に対し、同チームが開発したガスプラズマ滅菌の広範な導入を推奨している。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sang 2006; 91(Suppl 3): 68-69	米国で供血後に古典的CJDを発症した個人を特定し、受血者の追跡調査を行った。2006年2月までに、古典的CJDで死亡した供血者31名が試験に登録され、384名の受血者が特定された。追跡を行ったところ、古典的CJDが輸血を介して受血者に伝播したという証拠は示されなかった。本研究は、1995年に米国の大規模血液供給システムと疾病対策予防センター(CDC)により開始され、継続中である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイバーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月21日	アイルランド輸血サービスは、CJDの病因となるプリオンを供血血液から除去するために開発された新しい装置を1年間使用した後、試用の中止を決定した。血液サービスは昨年、そのフィルター装置を購入したが、十分な効果が得られず、CJDプリオンは捕捉されずに通過し、供血中に混入する可能性があるためである。
												BSE	ABC Newsletter 2006年9月22日 16ページ	欧州協議会は2005年の反芻動物(有蹄動物)における伝達性海綿状脳症(TSE)のモニタリングと検査に関する報告書を発表した。TSE検査を行った1千万頭以上のウシのうち、陽性となったのは561頭のみであった。2005年の調査結果は陽性例が引き続き減少していることを示している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 314: 133-136	慢性消耗病(CWD)非感染シカをCWD陽性のシカの唾液、血液または尿・糞に曝露させた。その結果、CWDを伝播しうる感染性プリオンが唾液および血液中に認められた。CWDはシカ科の動物に容易に伝播すると言える。プリオン感染では体液との接触に関する注意が払われるべきである。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sang 2006; 91(Suppl 3): 70	PRDT(Pathogen Removal and Diagnostics Technologies)は、全血、RBCまたは血漿存在下で脳由来プリオンタンパク質およびTSE感染物と強く結合する高親和性リガンドを得るため、何百万もの化合物をスクリーニングした。その結果、PRDTのリード樹脂は赤血球存在下でも高濃度のTSE感染物を吸着し、低濃度の内因性TSE感染物を除去した。この樹脂を使用したMacoPharma P-Capt(TM)フィルターを用いることにより、輸血によるvCJD伝播リスクを軽減できる。
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	2003年12月及び2005年4月に固形臓器の移植を受けた2つの患者群の感染症について調べた。レシビエント全員(8名)の検体からリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)が検出されたが、ドナー(2名)からは検出されなかった。2005年群のドナーはLCMVに感染したハムスターをペットとして飼っていたが、2003年群の感染源は不明であった。レシビエント8例中7例は移植後9日から76日で死亡した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	2005年12月以降、チクングンヤウイルス感染のアウトブレイクがインドの8つの州で続いており、拡大するおそれがある。最も被害の大きい5つの州では896500例以上の疑い例が報告されている。北部の州からは1例も報告されていない。ヨーロッパの多数の国で輸入症例が報告されている。感染の拡大防止ならびに特異的な抗ウイルス薬とワクチンの開発が急務である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	ヨーロッパでのB型肝炎発生率は北西部が低く(1%以下)、南部が高い(5-15%)。北西部では抗HBcスクリーニングが導入され、南部ではHBV-NATが導入される傾向がある。B型肝炎ウイルス陽性となった供血者と血液の管理に関して、ヨーロッパではHBV DNA、HBc抗体陽性でHBs抗体レベルが100IU/L以上の場合には供血を続けることができるというリエントリー・アルゴリズムが検討されている。
												B型肝炎	Vox Sang 2006; 91: 237-243	ドイツ赤十字血液センターの供血者10000名を、現行のPRISM®HBcおよび新規PRISM®Hbcore検査を用いたHBc抗体のスクリーニングを実施し、診断感度および特異性を調べた。両者とも約1.8%がHBc抗体陽性であることを示し、感度は同等であったが、特異性はPRISM® Hbcoreの方が有意に高かった。この検査が陽性であった188検体について、さらに7種類の抗HBc検査、2種類の抗HBs検査、1種類の抗Hbe検査、3種類のHBV NAT検査を行った。検査結果を比較した。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	輸血用血液製剤のHBV、HCV、HIVについて、2000年2月から2004年1月までの4年間の遡及調査を行った。調査は、主に複数回献血者において感染症マーカーが陽転した場合に前回の血液サンプルを個別NATで精査するもので、HBVについては50プールNAT、HBsAg、HBcAbのいずれかの陽転例約16000人について前回の保管検体を調べた。副作用報告による感染例を合すると、日本では輸血によるHBV感染が1年に約19例、HCV感染は4年に1例、HIV感染は2年に1例起こるものと推定された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会2006年6月 9-11日	医療機関において輸血後感染症の全数調査を実施したところ、輸血後陽転例はHBVで9例(0.9%)存在し、1例のみが輸血後B型肝炎と診断され、他の8例は感染晩期のHBVキャリアで再活性化が起こったと考えられた。HCVとHIVでは輸血後陽転例はみられなかった。
												B型肝炎	日本輸血学会雑誌52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会2006年6月 9-11日	日本の献血者におけるHBV NAT陽性者について解析したところ、20歳代ではHBV感染初期、50歳代、60歳代では感染晩期の陽性例が多かった。陽性数の高い地域は千葉県から愛知県までの太平洋側と大阪府であった。HBV Genotype Aは101例(女性1例)検出され、全国に広がる傾向が見られた。
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会2006年6月 9-11日	2005年に全国の医療機関から日本赤十字社へ報告された輸血感染症(疑い症例を含む)の現況とその傾向についての報告である。2005年輸血感染症症例(疑い症例を含む)報告数は12月22日現在260例で、内訳は、HBV:127、HCV:71、HEV:2、HIV:2、CMV:3、ヒトパルボウイルスB19:3、細菌:52であった。この内、輸血との因果関係が高いと評価した症例は、HBV:10例、HCV:1例、HEV:1例、ヒトパルボウイルスB19:3例であった。
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	スペインの肝臓及び消化器専門クリニック数施設における急性C型肝炎の全報告例についてレトロスペクティブ疫学解析を行った。1998年から2005年の急性C型肝炎患者103例を対象とした。大部分の症例で感染に関連する唯一の立証されたリスクファクターは入院であった。
386	2006/12/20	60761	日本赤十字社	人全血液	人全血液	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	中日新聞 Chunichi Web Press 2006年9月4日	60760に同じ
												マラリア	GDC 2006年6月30日	60760に同じ
												マラリア	ProMED-mail20060624.1758	60760に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(37): 1013-1016	60760に同じ
												マラリア	AABB Weekly Report 2006年9月 15日	60760に同じ
												マラリア	ProMED- mail20061004.2843	60760に同じ
												トリパノソーマ 症	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(29): 798-800	60760に同じ
												トリパノソーマ 症	Vox Sang 2006; 91(Suppl 3): 98	60760に同じ
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	60760に同じ
												鳥インフルエン ザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041- 1043	60760に同じ
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	60760に同じ
												バルボウイル ス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	60760に同じ
												バルボウイル ス	Transfusion 2006; 46:1593-1600	60760に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	60760に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2006 Sep 1; 16	60760に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sang 2006; 91(Suppl 3): 68-69	60760に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	60760に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日	60760に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60760に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60760に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月21日	60760に同じ
												BSE	ABC Newsletter 2006年9月22日 16ページ	60760に同じ



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 314: 133-136	60760に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Vox Sang 2006; 91(Suppl 3): 70	60760に同じ
												リンパ性脈絡髄 膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	60760に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	60760に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60760に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	60760に同じ
												B型肝炎	Vox Sang 2006; 91: 237-243	60760に同じ
												B型肝炎C型 肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60760に同じ
												B型肝炎C型 肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60760に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60760に同じ
												B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60760に同じ
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	60760に同じ
387	2006/12/20	60762	日本赤十字社	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	中日新聞 Chunichi Web Press 2006年9月4日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界で感染が広がっている主流のHIV1型とは遺伝子タイプが異なる2型に日本人が初めて感染したことを、厚生労働省のエイズ研究班が確認したことが9月3日分かった。厚生省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。同省は「滞在していた地域では2型が流行しており、現地での輸血が感染原因とみられる」としている。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
													J Infect Dis 2006; 194: 154-158	ヒトパルボウイルスB19DNA(1.6x10 <sup>4</sup> IU/mL)を含むプール血漿の輸血後、B19 IgG陽性の患者では抗体価が19-39 IU/mLから50-100 IU/mLに上昇して再感染を防いだ。それに対し、陰性の患者では、1.6-2.2 x 10 <sup>4</sup> IU/mLのB19DNAの存在下で、プール血漿のIgGレベルが59.5IU/mLではB19の伝播とセロコンバージョンを防ぐのは不十分であることがわかった。
													Transfusion 2006; 46:1593-1600	パルボウイルスB19ジェノタイプ3流行地域であるガーナで、114組の成人供血者-小児受血者ペアにおける輸血によるB19の伝播および免疫学的特性について調べた。2例の供血がパルボウイルスB19DNAと特異的抗体を含有していたが、伝播は見られなかった。B19 IgG含有の全血がB19DNA陽性受血者14例に輸血されていたが、その内、輸血前にVP2に対する抗体が認められなかった10例ではウイルスが除去された。
													Blood 2006; 107: 3907-3911	PrPcは全身の多数の組織に存在し、血小板に大量に存在する。静止血小板ではα顆粒膜上に存在することが知られているが、その生理学的機能は不明である。血小板中のPrPcの局在を調べたところ、血小板が活性化すると、血小板表面上にPrPcが一時的に発現し、続いて、微小胞およびエキソソーム上への放出が起こることが明らかとなった。血小板由来エキソソーム上にPrPcが存在することは、血中でのPrPc輸送および細胞間伝播におけるメカニズムを示唆する。
													ABC Newsletter 2006 Sep 1; 16	外科用器具には殺菌後も依然としてクロイツフェルトヤコブ病(CJD)が残存する可能性が明らかとなった。エジンバラ大学研究チームは、タンパク質による平均汚染量が器具1mm <sup>2</sup> あたり0.2μgであり、ヒトへの感染に必要な量をかなり上回る数値であることを認めた。最大量は、扁桃腺(プリオンが分布することが知られている組織のひとつ)の切除に用いた器具で認められた。同チームは、保健省に対し、同チームが開発したガスプラズマ滅菌の広範な導入を推奨している。
													BMJ 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイビーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												BSE	ABC Newsletter 2006年9月22日 16ページ	欧州協議会は2005年の反芻動物(有蹄動物)における伝達性海綿状脳症(TSE)のモニタリングと検査に関する報告書を発表した。TSE検査を行った1千万頭以上のウシのうち、陽性となったのは561頭のみであった。2005年の調査結果は陽性例が引き続き減少していることを示している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月21日	アイルランド輸血サービスは、CJDの病因となるプリオンを供血血液から除去するために開発された新しい装置を1年間使用した後、試用の中止を決定した。血液サービスは昨年、そのフィルター装置を購入したが、十分な効果が得られず、CJDプリオンは捕捉されずに通過し、供血中に混入する可能性があるためである。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	2005年4月1日から2006年2月28日の間に、フランスで307例のチクンゲンヤ輸入例が同定された。平均年齢は47歳(7-81歳)であった。月別の輸入例数はレユニオンでの発生状況と関連が見られた。自発例は2006年3月に1例発生したが、輸入例患者を看護した看護師で、インド洋への旅行歴はなく、血液の暴露による感染と考えられた。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	2003年12月及び2005年4月に固形臓器の移植を受けた2つの患者群の感染症について調べた。レシピエント全員(8名)の検体からリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)が検出されたが、ドナー(2名)からは検出されなかった。2005年群のドナーはLCMVに感染したハムスターをペットとして飼っていたが、2003年群の感染源は不明であった。レシピエント8例中7例は移植後9日から76日で死亡した。
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	2005年12月以降、チクンゲンヤウイルス感染のアウトブレイクがインドの8つの州で続いており、拡大するおそれがある。最も被害の大きい5つの州では896500例以上の疑い例が報告されている。北部の州からは1例も報告されていない。ヨーロッパの多数の国で輸入症例が報告されている。感染の拡大防止ならびに特異的な抗ウイルス薬とワクチンの開発が急務である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	ヨーロッパでのB型肝炎発生率は北西部が低く(1%以下)、南部が高い(5-15%)。北西部では抗HBcスクリーニングが導入され、南部ではHBV-NATが導入される傾向がある。B型肝炎ウイルス陽性となった供血者と血液の管理に関して、ヨーロッパではHBV DNA、HBc抗体陽性でHBs抗体レベルが100IU/L以上の場合は供血を続けることができるというリエントリー・アルゴリズムが検討されている。
												B型肝炎	Vox Sang 2006; 91: 237-243	ドイツ赤十字血液センターの供血者10000名を、現行のPRISM®HBcおよび新規PRISM®Hbc core検査を用いたHBc抗体のスクリーニングを実施し、診断感度および特異性を調べた。両者とも約1.8%がHBc抗体陽性であることを示し、感度は同等であったが、特異性はPRISM® Hbc coreの方が有意に高かった。この検査が陽性であった188検体について、さらに7種類の抗HBc検査、2種類の抗HBs検査、1種類の抗Hbe検査、3種類のHBV NAT検査を行って、検査結果を比較した。
												B型肝炎 C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	輸血用血液製剤のHBV、HCV、HIVについて、2000年2月から2004年1月までの4年間の遡及調査を行った。調査は、主に複数回献血者において感染症マーカーが陽転した場合に前回の血液サンプルを個別NATで精査するもので、HBVについては50プールのNAT、HBsAg、HBcAbのいずれかの陽転例約16000人について前回の保管検体を調べた。副作用報告による感染例を合せると、日本では輸血によるHBV感染が1年に約19例、HCV感染は4年に1例、HIV感染は2年に1例起こるものと推定された。
												B型肝炎 C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	医療機関において輸血後感染症の全数調査を実施したところ、輸血後陽転例はHBVで9例(0.9%)存在し、1例のみが輸血後B型肝炎と診断され、他の8例は感染晩期のHBVキャリアで再活性化が起こったと考えられた。HCVとHIVでは輸血後陽転例はみられなかった。
												B型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	日本の献血者におけるHBV NAT陽性者について解析したところ、20歳代ではHBV感染初期、50歳代、60歳代では感染晩期の陽性例が多かった。陽性数の高い地域は千葉県から愛知県までの太平洋側と大阪府であった。HBV Genotype Aは101例(女性1例)検出され、全国に広がる傾向が見られた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎 C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	2005年に全国の医療機関から日本赤十字社へ報告された輸血感染症(疑い症例を含む)の現況とその傾向についての報告である。2005年輸血感染症症例(疑い症例を含む)報告数は12月22日現在260例で、内訳は、HBV:127、HCV:71、HEV:2、HIV:3、CMV:3、ヒトパルボウイルスB19:3、細菌:52であった。この内、輸血との因果関係が高いと評価した症例は、HBV:10例、HCV:1例、HEV:1例、ヒトパルボウイルスB19:3例であった。
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	スペインの肝臓及び消化器専門クリニック数施設における急性C型肝炎の全報告例についてレトロスペクティブ疫学解析を行った。1998年から2005年の急性C型肝炎患者103例を対象とした。大部分の症例で感染に関連する唯一の立証されたリスクファクターは入院であった。
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血しょう検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンブロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生の学的分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。
388	2006/12/21	60763	三菱ウェルファーマ	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)注射剤	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
389	2006/12/21	60764	三菱ウェルファーマ	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)注射剤	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	米国	製造工程	無	無	無			
390	2006/12/25	60765	富士製薬工業	下垂体性性腺刺激ホルモン	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	更年期婦人の尿抽出物	中国	有効成分	無	無	無			
391	2006/12/25	60766	富士製薬工業	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	更年期婦人の尿抽出物	中国	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
392	2006/12/25	60767	富士製薬工業	トロンピン	トロンピン	ウシの血液	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	無	無	無			
393	2006/12/25	60768	富士製薬工業	トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ又はブタの肺	ウシ:ニュージーランド、ブタ:デンマーク	製造工程	無	無	無			
394	2006/12/25	60769	協和醗酵工業	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシの血液	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
395	2006/12/25	60770	協和醗酵工業	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	米国	製造工程	無	無	無			
396	2006/12/25	60771	ワイス	エタネルセプト(遺伝子組換え)	仔ウシ血清	ウシ血液	米国	製造工程	有	無	無	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月8日	2006年6月15日にManitobaで安楽死させた病牛は、ウエスタンプロット法と免疫組織化学法により7月3日にBSEと確定された。カナダにおける6頭目のBSE牛であるが、過去の5例とは異なるBSE株であり、ヨーロッパやアメリカで報告されている少数株である。CFIAは直ちにOIE BSEガイドラインに基づいた疫学的調査を開始した。所有者の記録によると、このウシは16か17歳であり、1997年以前に肉・骨粉を含んだ餌を食べた可能性があるが、供給源は不明である。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	カナダ食品検査局調査官は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月齢の乳牛に関する疫学的調査を終了した。このウシはカナダで7頭目のBSE牛である。問題の牛のどの部分も、ヒトおよび動物の食物システムには含まれていない。
397	2006/12/25	60772	ワイス	エタネルセプト(遺伝子組換え)	ウシトランスフェリン	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月8日	60771に同じ
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	60771に同じ



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
398	2006/12/26	60773	日本オルガノン	フォリトロピンベータ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血液	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
399	2006/12/26	60774	化学及血清療法研究所	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	スルホ化人免疫グロブリンG	ヒト血液	①米国(ベニロン)②日本(献血ベニロン-I)	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
400	2006/12/26	60775	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	アンチトロンビンⅢ	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
401	2006/12/27	60776	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	ラードウォーター	ブタ	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
402	2006/12/27	60777	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	ペプトン	ウマの脾臓、脛、ウシの心臓、脾臓及びブタのラードウォーターをブタのパンクレアチン及びペプシンで処理したもの	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
403	2006/12/27	60778	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	ペプシン	ブタの胃液	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
404	2006/12/27	60779	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	フェツイン	ウシの血清由来	カナダ、米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
405	2006/12/27	60780	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	パンクレアチン	ブタの脾臓由来	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
406	2006/12/27	60781	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	D-ガラクトース	ウシの乳汁	米国	製造工程	無	無	無			
407	2006/12/27	60782	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血清	カナダ、米国、ニュージーランド	マスターセルバンク構築時に使用	無	無	無			
408	2006/12/28	60783	バクスター	該当なし	トロンピン	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
409	2006/12/28	60784	バクスター	該当なし	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	無	有	無			
410	2006/12/28	60785	バクスター	該当なし	ヒト凝固性たん白質(フィブリノゲン加第XIII因子)	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
411	2006/12/28	60786	バクスター	該当なし	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ又はニュージーランド	有効成分・添加物	無	有	無			
412	2006/12/28	60787	バクスター	該当なし	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	中国	製造工程	無	有	無			
413	2006/12/28	60788	バクスター	乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
414	2006/12/28	60789	バクスター	乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	無	有	無			